ANNIVERSARY MORIOKA JUNIOR CHAMBER. INC.

70TH

一般社団法人 盛岡青年会議所

創立70周年記念誌

ANNIVERSARY MORIOKA JUNIOR CHAMBER. INC.

70TH

一般社団法人 盛岡青年会議所

創立70周年記念誌

JCI

一般社団法人 盛岡青年会議所

CONTENTS

目　次

01 盛岡青年会議所設立趣意書 3

02 JCI Creed・JCI Mission・JCI Vision・JC宣言・綱領・東北JC宣言 4

03 ご挨拶
一般社団法人盛岡青年会議所　2022年度理事長　大和田祐輔 5
盛岡JCシニアクラブ　会長　佐藤克(第23代理事長) 6

04 祝辞
岩手県知事　達増拓也 7
盛岡市長　谷藤裕明 8
盛岡商工会議所　会頭　谷村邦久 9
公益社団法人日本青年会議所　第71代会頭　中島土 10
スポンサーJC 公益社団法人仙台青年会議所2022年度理事長　八重樫司 11
姉妹JC 台湾羅東國際青年商會　2022年度會長　魏丞敏 12

05 盛岡青年会議所歴代理事長 13

06 JCI盛岡この10年を振り返る 17
2012～2016活動報告 18
2017活動報告 21
2018活動報告 22
2019活動報告 23
2020活動報告 24
2021活動報告 25
2022活動報告 26

07 創立70周年記念特別企画Ⅰ　第65代～第70代理事長座談会 27

08 創立70周年記念特別企画Ⅱ
次世代が見据える～JCI ～青年会議所と自身の可能性
「メンバー対談」 37

09 今年度事業報告 43
第34回わんぱく相撲盛岡場所事業報告 44
第45回盛岡さんさ踊り事業報告 45
記念事業Ⅰ「マリ共和国助産所建設プロジェクト」 46
記念事業Ⅱ「視野を広げて、好きを仕事に!」 47

10 編集後記 48

盛岡青年会議所設立趣意書

青年会議所は1915年アメリカのセントルイスに創始せられ、将来経済界の指導的地位につく青年をして自己の都市に対する関心を高めしめ且つ積極的建設的計画によって市民の福祉を増進しそれ等の青年に個人的発達と成功の機会を興しうると共に相互にその友情を深めんとするものでありまして

１. 個人の修練

２. 社会への奉仕

３. 世界との友交

の３項を目的としております。

この運動は次第にアメリカ全土に拡がり更にカナダ南米オーストラリア等30数ヶ国に及び1946年パナマにこれらの統合体である国際青年会議所が誕生するに至りました。日本に於ても東京を始め仙台、青森等20数都市にその設立をみ昭和26年春にはこれらの統合体として日本青年会義所が設立されて居るのであります。

八年前戦争に荒廃した四ツの島々に残された我々日本人もその余塵の中にかすかな光を見出したのであります。

その光は８年後の今日明らかな光明として日本の行方を居るそれは「民主的自由の精神」でありこれを置いては生きる道も人類の福祉も全世界の繁栄も期し得ない事はおぼろげながら我々の認識の中に入りつつあると思います。

日本のみならず全世界は彼等の求めんとして繁雑さの故に求め得られざりし事を我々青年の中に求めんとして居るこれは「青年に着目せよ」「青年に期待せよ」の声となって我々の耳朶を打つのであります。

我々若き盛岡の経済人も「民主的自由の精神」を通じて前記三項の目的達成の為に集い全国の青年経済人と共に全世界の組織を通じて人類の福祉の貢献せんとするものであります。

The Creed

of Junior Chamber International

We Believe:
That faith in God gives meaning and purpose to human life;
That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won by free men through free enterprise;
That government should be of laws rather than of men;
That earth's great treasure lies in human personality;and
That service to humanity is the best work of life

我々はかく信じる：
「信仰は人生に意義と目的を与え　人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は　自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず法によって　運営さるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり　人類への奉仕が人生最善の仕事である」

JCI Mission

To provide development opportunities
that empower young people to create positive change.

より良い変化をもたらす力を青年に与えるために発展・成長の機会を提供すること

JCI Vision

To be the leading global network of young active citizens.

若き能動的市民の主導的なグローバル・ネットワークになること

JC 宣言

日本の青年会議所は希望をもたらす変革の起点として
輝く個性が調和する未来を描き社会の課題を解決することで
持続可能な地域を創ることを誓う

綱 領

われわれJAYCEEは社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう

東北JC宣言

われわれは新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚ましかつてない未来を切り拓くことを誓う

ご挨拶

一般社団法人盛岡青年会議所
2022年度 第70代理事長
大和田 祐 輔

平素より一般社団法人盛岡青年会議所の活動につきまして、多大なるご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。盛岡青年会議所は、1953年２月２日、仙台青年会議所のスポンサーのもと、青年経済人として地域を牽引せんとする強い使命感と情熱を持った27名の諸先輩方によって、全国で38番目の青年会議所として設立されました。以来70年にわたり、市民の皆様並びに関係諸団体に支えられながら、「明るい豊かな社会」の実現を目指してまいりました。時代とともに変わりゆく地域社会の未来を常に見据え、率先してひとづくりを通したまちづくりを実践し続けた先輩諸兄姉の弛まぬ努力によって、盛岡青年会議所の運動は歩みを止めることなく今日まで受け継がれてきました。

創立70周年という節目に過去を振り返ると65周年からの５年間においても私たちを取り巻く環境は大きく変わりました。新型コロナウイルス感染症の影響により、盛岡青年会議所の活動も、それまでのあり方から大きな変更を余儀なくされました。WEB会議の急速な普及やリモートワークをはじめとした多様な働き方等、時代はまさに転換期を迎えています。少子高齢化が叫ばれて久しく、我々青年世代の人口は減少の一途を辿っています。５年後に迎える創立75周年に向けて、私たち盛岡青年会議所も、この時代に合わせたあり方を追求していかなければなりません。現在の会員数は適正なのか、また定款・諸規程はどのように整備していくべきなのか。今後も持続的にもりおかのまちに貢献していくために、我々自身のあり方も見直していかなければなりません。

私たちは、決して歩みを止める訳にはいきません。激動の時代だからこそ、地域の未来に生きるひとのため、新たな一歩を踏み出し、私たちが牽引していかなければなりません。盛岡青年会議所の70年間の歩みを継承し、さらに運動を進化させていく礎とすべく、本誌を発刊させていただくこととなりました。本誌発刊に当たり、改めて先輩諸兄姉が築き上げられてきたものに支えられて今の私たちがあるということを実感するとともに、感謝の気持ちが溢れてきます。

結びとなりますが、会員一同、これまで以上に青年会議所運動に邁進して参ります。これからも引き続き関係各位のご指導、ご鞭撻を賜ります事をお願いするとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、創立70周年記念誌発刊のご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

盛岡 JCシニアクラブ会長
佐藤　克
(第23代理事長)

第二次大戦後、まもなく、荒廃した国土の復興を旗印に、東京ではじまった青年会議所運動は、瞬く間に、全国に拡大いたしました。
盛岡青年会議所も、その発展途上の極めて早い段階で設立され、指導的役割を担いながら、今日まで活動を続けてこれたのは、ひとえに皆様のお陰です。

その時どき、若さにあふれ、郷土の未来に夢を描いて、活動を続けた先輩会員の努力の賜物であります。会員の資質の向上と団体としての社会貢献に大きな成果をあげ、地域社会の期待に応えながら、歴史を重ねてまいりました。

創立70周年の節目は、その歴史を検証し、更に未来に向かって確かな展望を切り開く、またとない機会であります。何よりも、私たちをとり巻く環境は、この70年の間に大きく変化してまいりました。国力は増し、生活は豊かになりましたが、人口減少、高齢化、家族制度の変化等々、問題は山積しております。

若い世代特有の柔軟な発想と行動力で、難局を切り開かなければならないという時代認識は、ある意味、70年前、運動をスタートさせた時と一緒なのかもしれません。

盛岡青年会議所一人ひとりが、心を合わせ、力を結集して、この記念すべき年を機に、一層、御活躍下さるよう祈念するとともに、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

祝 辞

岩手県知事
達 増 拓 也

一般社団法人盛岡青年会議所が創立70周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

盛岡青年会議所は、昭和28年に岩手県初の青年会議所として設立されて以来、明るい豊かな社会の実現のため、「奉仕・友情・修練」の三信条の下、次世代のあるべき姿を見据えながら、多彩な活動を通じて地域社会の発展に寄与してこられました。

盛岡青年会議所におかれましては、これまで、盛岡さんさ踊りの企画・運営を始め、わんぱく相撲盛岡場所、台湾・羅東國際青年商会との姉妹交流など、地域振興や次世代育成、国際交流等に幅広く取り組まれ、地域とともに歩み、大きな成果を挙げられていることは、歴代の理事長や会員一人ひとりの熱意のたまものであり、深く敬意を表します。

また、東日本大震災津波や度重なる台風災害等に際しては、被災地への支援物資の輸送やガレキの撤去など、復旧・復興への支援活動に取り組んでいただいたほか、新型コロナウイルス感染症の流行やウクライナ情勢等により社会経済活動が大きな影響を受けている中にあっても、様々に創意工夫しながら、地域社会活動を展開していただいていることに、心から感謝申し上げます。

県では、「いわて県民計画（2019～2028）」において、「東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を基本目標に掲げ、震災からの復興を最重要課題として、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求できる地域社会であるよう、オール岩手の力を結集しながら、様々な施策を推進しております。

今年は、「盛岡県」から「岩手県」に改称されて150周年となり、令和８年には、現在の岩手県の県域が確定されて150周年を迎えます。このことから、県では令和４年度から令和８年度までの５年間を「県政150周年記念期間」と位置付け、県民の皆様と共に、岩手の歴史を振り返り、先人の偉業と努力に感謝し、岩手の未来を展望する契機としていますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願いします。

盛岡青年会議所の皆様におかれましては、今後とも、若い力と行動力で、盛岡地域のみならず、岩手の未来を担うリーダーとして、より一層御活躍されますことを心から期待しております。

結びに、一般社団法人盛岡青年会議所が、創立70周年を契機として、新しい時代へ向けて更なる飛躍を遂げられますことを御期待いたしますとともに、会員の皆様の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝　辞

盛岡市長

谷 藤 裕 明

一般社団法人盛岡青年会議所が創立70周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴会議所は、昭和28年に創立されて以来、70年の長きに亘り「明るい豊かな社会」の実現を目指され、市民・企業・行政・諸団体との連携のもと、産業の振興はもとより、地域づくり、人材育成、国際交流など、多岐に及ぶ事業の展開により、盛岡市勢の発展に多大な貢献をされました。このことに深く感謝申し上げますとともに、歴代の理事長をはじめ、役員並びに会員各位のひとかたならぬ御尽力に対しまして、衷心より敬意を表します。

また、現在は、国際連合が掲げる持続可能な開発目標ＳＤＧｓの達成をビジョンに掲げた運動を積極的に展開されており、経済界のみならず、様々な分野で、グローバルな視点を持ったリーダーとして、今後の御活躍に期待申し上げるものであります。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、世界的に未曽有の事態をもたらし、我が国におきましても、感染症を克服し、新たな時代を開拓するための、まさに大きな転換期を迎えているところであり、コロナ禍における新たな地域課題の解決に向けて、若きリーダーが一丸となって取り組まれていることは誠に心強い限りです。

盛岡市といたしましては、若者の地元定着やまちの未来には「人づくり」が何よりも欠かせないものであり、新たな時代を担う若者が、自らの望む仕事で知識を活かし、成長しながら働き、希望をもってこの盛岡に住み、生活し続けるためのまちづくりを進めなければならないものと存じております。この激しい変化の過程にある社会経済において、ポストコロナの未来を構想し、未来への投資を間断なく行い、その実現に向け歩みを進めながら、「市民本位の、市民起点によるまちづくり」の信念の下、人々がいきいきと暮らし、誰もが住み良く、将来とも魅力あふれる東北の拠点都市として、「ひと・まち・未来が輝き世界につながるまち盛岡」の実現に向けて全力で取り組んでまいりたいと存じます。

この輝かしい70周年を契機に、今後におかれましても、さらに貴会議所の組織力や創造力、行動力を発揮され、次世代を担う若きリーダーとして、市政の推進に一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人盛岡青年会議所の益々の御発展と、皆様の更なる御健勝、御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝　辞

盛岡商工会議所
会頭
谷 村 邦 久

一般社団法人盛岡青年会議所の創立70周年を心よりお祝い申し上げます。

昭和28年２月、社会情勢が安定しない戦後の混乱期において、全国38番目の青年会議所として誕生して以来今日まで、次世代の担い手たる青年たちが、「明るい豊かな社会の実現」を目指し、地域社会が抱える諸課題の解決に向けて尽力されてこられたご功績に心より敬意を表します。

その活動の幅は広く、現在、まちの未来を創造するグループワークや、わんぱく相撲盛岡場所の開催など、子どもたちの明るい未来へと繋がる事業を数多く実施されております。盛岡さんさ踊りの開催にあたっては、一般の方が気軽に踊りパレードに参加できる花車を運営されており、市民や観光客から大変好評を得ております。まさに祭りには欠かせない華やかな存在で、３年ぶりの開催となった令和４年の祭りも大いに盛り上げていただきました。

盛岡地域の経済は、長引くコロナの影響に加え、ロシアのウクライナ侵攻を契機とした燃料価格の高騰・物価の上昇なども相まって、非常に厳しい状況が続いております。いかにして感染症対策と社会経済活動の両立を図るかが重要な課題であり、この困難を乗り越えるためには、行動力にあふれた貴会議所の皆様の協力が不可欠です。若い英知と団結力をもって、夢や希望が広がる盛岡を創造していただきたいと大きな期待を寄せております。

結びに、貴会議所がこの度の創立70周年を契機として、更なる発展を遂げられるようお祈りし、お祝いの言葉といたします。

祝　辞

公益社団法人 日本青年会議所
第71代会頭
中 島　土

一般社団法人盛岡青年会議所の皆様、創立70周年、誠におめでとうございます。

本年度、大和田祐輔理事長のもと「幸福へ向けて一歩を踏み出そう～全てのひとが幸福を実現できる社会へ～」を掲げられ、社会課題に対し、多くの持続可能な仕組みをつくる運動を展開される事と存じます。

これまで長年に渡り、日本青年会議所へ、素晴らしい人財をご輩出下さっておりますことに衷心より感謝申し上げますとともに、青年会議所運動を通して、まちに多くの価値を創出して来られたことに対しまして、心より敬意を表します。

日本青年会議所と致しましては、「まちにより良い変化をもたらし愛が溢れる国をつくる」を基本理念として掲げ、各地青年会議所と手を携え、皆様のまちをより良くするための運動を展開してまいります。引き続き深いご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、私共を大いにご活用頂ければ幸いです。

結びに、70周年の大切な節目の年に、貴青年会議所のさらなるご発展、並びに地域において素晴らしい運動の成果を出されること、さらに、現役会員、先輩諸氏の皆様にとって実り多き一年となられますことを心よりご祈念申し上げます。

祝 辞

スポンサーJC
公益社団法人 仙台青年会議所
2022年度 理事長
八重樫 司

一般社団法人盛岡青年会議所が、創立70周年の記念すべき年を迎えらましたことを、心よりお慶び申し上げます。1953年に全国で38番目、岩手県として初めての青年会議所として創立された貴青年会議所は、時代に応じた熱意のある活動を通じて、地域に必要とされる団体として地域発展に大いに貢献されてこられました。これまでの礎を築いてこられた先輩諸兄姉をはじめ、関係各位の弛まぬご尽力とご活躍に対しまして深く敬意を表します。

本年度もまちの変化と共に時代に沿った運動を展開され、多くの市民の皆様と共に歩み、70年の歴史を築いてこられた盛岡青年会議所の皆様も大和田祐輔理事長が掲げられる「幸福へ向けて一歩を踏み出そう～全てのひとが幸福を実感できる社会へ～」のスローガンの下､「多様性を享受し人間力を高めあいながらまちの未来をより良く繋いでいく組織」をビジョンとして、新型コロナウイルス感染症により大きく社会が変化する中、これまで先輩諸氏が積み重ねてきた情熱を引き継ぎ、郷土愛を持った地域を牽引するリーダーとして、真に時代に合った組織であり続けるための努力を惜しまず活動されております。

また、貴青年会議所は、まちの持続的発展に向けた事業として「盛岡さんさ踊り」を長きに亘り主催団体の一つとして参画するとともに、未来を担う青少年の育成のために「わんぱく相撲盛岡場所」の開催といった事業にも、精力的に取り組まれています。

今後も青年会議所運動を通じて、メンバー同士が切磋琢磨しながら多くの経験を経て、新たな発想を見出し、地域を牽引する人財として行動を起こすひとづくりを継続されることで、盛岡青年会議所メンバー皆様の愛する盛岡のまちがこれからも発展し続けるものと信じております。

この度70周年を一つの節目として、持続可能な地域の創造に向けて、多様な価値観のもと、若者らしい柔軟な発想と益々のリーダーシップを発揮され、青年としての英知と勇気と情熱をもって盛岡市民の皆様と共に青年会議所運動に邁進されますことをお祈り申し上げます。

末筆ではございますが、創立70周年迎えられた一般社団法人盛岡青年会議所の今後益々のご発展と、皆様のご健勝とご活躍を心より祈念申し上げます。

祝 辞

姉妹JC
台湾羅東國際青年商會
2022年度會長
魏 丞 敏

欣逢日本盛岡青年會議所成立七十週年慶典，殊屬可慶，丞敏謹代表羅東國際青年商會全體會友祝賀大會圓滿、成功，在這個特別的日子裡，獻上最誠摯的祝福。

回顧以往，在歷屆前輩們的辛勤耕耘下，日本盛岡青年會議所和羅東國際青年商會至今已締盟 54 年，回顧這 54 年來，本會與貴會每年互相拜訪、互相學習、發揮互助精神共謀會員福祉，綿綿不斷的交流，一直到現在仍保持友好關係，實屬難得。

這三年全球受疫情影響，大家停頓了原有的步伐，幸好通訊發達透過了線上視訊交流的方式解決了各種考驗，也是證明我們的情感永不變!

今年也適逢羅東青商 55 週年慶典，因為疫情影響感謝日本姐妹會的配合,採用連線方式增添本次慶典的光采。明年是日本盛岡青年會議所與羅東國際青年商會締盟 55 週年，期盼再次共同締造新的里程碑，持續兩會情誼!

最後敬祝

日本盛岡青年會議所 七十週年慶典圓滿順利、會務昌隆、

全體會友及與會嘉賓，心想事成!

【日本語訳】

盛岡青年会議所の創立70周年を心からお慶び申し上げます。羅東國際青年商會を代表いたしまして魏丞敏より式典の成功とご盛会を祈念し、この特別な日にお祝いの言葉を述べさせていただきます。

過去を振り返ると、盛岡青年会議所と羅東國際青年商會は諸先輩方のたゆまぬ努力のお陰で54年間の友好関係を築いてきました。これまで、お互いに訪問し合い、共に学び合って、相互扶助の精神で会員の幸福を追求してきました。現在に至るまで絶え間なく交流を続け、友情を育んでこられたのは大変貴重なことです。

この 3 年間、新型コロナウイルスの影響を受け、これまで通りの交流を行えませんでしたが、幸いなことにコミュケーション技術の発達により、オンラインにて交流を継続することができ、私たちの友情が決して変わらないことを証明できました！

本年開催した羅東國際青年商會の創立55周年記念式典では、姉妹JCである盛岡青年会議所の皆さんとオンラインで交流でき、より華やかなものとなりました。来年は、盛岡青年会議所と羅東國際青年商會の姉妹締結55周年です。新しい節目を一緒に迎え、さらに友情を育んでいけることを楽しみにしております！

重ねてお祝い申し上げます。

盛岡青年会議所の70周年記念式典の成功と皆様の更なる発展をお祈りしております。

盛岡青年会議所
歴代理事長

▼ 初代～24代

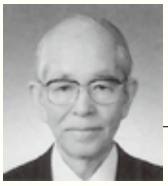
1953年（昭和28年）
初代理事長
川村　徳助
会員数27名

1954年（昭和29年）
第２代理事長
飯塚　博
会員数28名

1955年（昭和30年）
第３代理事長
袰岩 重右工門
会員数40名

1956年（昭和31年）
第４代理事長
川道　喜六
会員数39名

1957年（昭和32年）
第５代理事長
赤澤　真平
会員数42名



1958年（昭和33年）
第６代理事長
見坊　和雄
会員数44名

1959年（昭和34年）
第７代理事長
渡辺　良一
村井　研一郎
会員数47名

1960年（昭和35年）
第８代理事長
高橋 丹蔵之佐
会員数40名

1961年（昭和36年）
第９代理事長
川村　登
会員数49名

1962年（昭和37年）
第10代理事長
小笠原　昭三
会員数54名

1963年（昭和38年）
第11代理事長
松本　源蔵
会員数53名

1964年（昭和39年）
第12代理事長
村井　良一郎
会員数48名

1965年（昭和40年）
第13代理事長
桑原　毅（旧姓飯塚）
会員数48名

1966年（昭和41年）
第14代理事長
昆　克省
会員数58名

1967年（昭和42年）
第15代理事長
舘澤　宏邦
会員数63名

1968年（昭和43年）
第16代理事長
佐藤　實
会員数66名

1969年（昭和44年）
第17代理事長
栃沢　正一
会員数62名

1970年（昭和45年）
第18代理事長
森　雄一
会員数70名

1971年（昭和46年）
第19代理事長
難波　俊朗
会員数86名

1972年（昭和47年）
第20代理事長
佐藤　友克
会員数87名

1973年（昭和48年）
第21代理事長
阿部　光雄
会員数96名

1974年（昭和49年）
第22代理事長
平井　治
会員数103名

1975年（昭和50年）
第23代理事長
佐藤　克
会員数115名

1976年（昭和51年）
第24代理事長
藤原　欣一郎
会員数117名

▼ 25代～49代

1977年（昭和52年）
第25代理事長
小笠原 紘 一
会員数139名

1978年（昭和53年）
第26代理事長
田 口　圭 一
会員数128名

1979年（昭和54年）
第27代理事長
折 居　明 広
会員数118名

1980年（昭和55年）
第28代理事長
村 井　　忠
会員数113名

1981年（昭和56年）
第29代理事長
吉 田　莞 爾
会員数122名

1982年（昭和57年）
第30代理事長
杉 江　宏 司
会員数129名

1983年（昭和58年）
第31代理事長
鈴 木　　稔
会員数129名

1984年（昭和59年）
第32代理事長
中 澤　綜 一
会員数131名

1985年（昭和60年）
第33代理事長
平 野　喜 嗣
会員数124名

1987年（昭和62年）
第35代理事長
村 田　芳 三
会員数138名

1988年（昭和63年）
第36代理事長
宮 田　　謙
会員数131名

1989年（平成元年）
第37代理事長
藤 村　文 昭
会員数121名

1990年（平成２年）
第38代理事長
菊 地　善 雄
会員数127名（旧姓飯塚）

1991年（平成３年）
第39代理事長
天 沼　久 純
会員数129名

1992年（昭和４年）
第40代理事長
井 上　成 一
会員数117名

1993年（平成５年）
第41代理事長
荒 川　鉄 平
会員数160名

1994年（平成６年）
第42代理事長
久 慈　竜 也
会員数178名

1995年（平成７年）
第43代理事長
村 井　良 隆
会員数172名

1996年（平成８年）
第44代理事長
岡 村　　弥
会員数154名

1997年（平成９年）
第45代理事長
立 花　　裕
会員数145名

1998年（平成10年）
第46代理事長
福 井　誠 司
会員数153名

1999年（平成11年）
第47代理事長
関 根　　信
会員数144名

2000年（平成12年）
第48代理事長
佐 藤　重 昭
会員数147名

2001年（平成13年）
第49代理事長
森　　雅 之
会員数144名

▼ 50代～70代

2002年（平成14年）
第50代理事長
内館　茂
会員数140名

2003年（平成15年）
第51代理事長
野頭　泰行
会員数158名

2004年（平成16年）
第52代理事長
佐々木　聡
会員数164名

2005年（平成17年）
第53代理事長
川村　勇司
会員数151名

2006年（平成18年）
第54代理事長
金子　眞也
会員数148名

2007年（平成19年）
第55代理事長
清水　成樹
会員数145名

2008年（平成20年）
第56代理事長
白澤　仁
会員数153名

2009年（平成21年）
第57代理事長
田村　英司
会員数144名

2010年（平成22年）
第58代理事長
諏訪　泰幸
会員数147名

2011年（平成23年）
第59代理事長
藤田　治彦
会員数130名

2012年（平成24年）
第60代理事長
石川　啓
会員数134名

2013年（平成25年）
第61代理事長
浦田　学
会員数129名

2014年（平成26年）
第62代理事長
大泉　勝嗣
会員数121名

2015年（平成27年）
第63代理事長
岩渕　健二
会員数118名

2016年（平成28年）
第64代理事長
高橋　一仁
会員数118名

2017年（平成29年）
第65代理事長
波紫　裕司
会員数112名

2018年（平成30年）
第66代理事長
中野　美知子
会員数111名

2019年（令和元年）
第67代理事長
伊藤　淳之介
会員数110名

2020年（令和2年）
第68代理事長
宮野　祐樹
会員数96名

2021年（令和3年）
第69代理事長
田屋舘　真留久
会員数85名

2022年（令和4年）
第70代理事長
大和田　祐輔
会員数75名

JCI盛岡
この10年を
振り返る

2012～2022年の年間活動報告

2012

第60代理事長　石川　啓

みせてやろう底力

今こそ己を鼓舞し 挑戦するとき

1月　新年交賀会開催。理事長所信、事業計画、組織体制を発信。

2月　「～ You are your city 市民協同参画運動に向けて～」と題し市民参画事業についての例会を開催。

3月　日本JC第139回総会と「復興創造フォーラム 2012」が盛岡にて開催。
さらなる復興にむけた意識を喚起する例会を開催。
キャンドルナイト「絆」、復興応援メッセージフラッグ制作、東日本大震災パネル展を開催。

4月　5、10 年先を見据えて地域課題への対応策を考える例会「今このまちにある地域課題」を開催。

5月　「～学び、気づき、出逢い～」をテーマに出向者連絡会議を例会として開催。

6月　25周年を迎えたわんぱく相撲盛岡場所を例会として開催。

7月　市民を交えてワールドカフェの手法を用いた「まちのビジョン探求セミナー『盛岡 vision探求』」を開催。
市内小学生が 10年後の自分に向けて手紙を書く「『みらい便』～ 10年後のわたしへの手紙～」を開催。
「モリゥオーカー」と題して、市民とともに盛岡市内を回りながら写真を撮るフォトラリーを行う例会を開催。

8月　盛岡さんさ踊りを開催。
創立45周年を迎える羅東國際青年商會への公式訪問。

9月　通常総会開催。「『盛岡 vision 探求』～盛岡 Action 宣言～」を開催し、市民も含めた参加者がまちの課題を解決するための「Action」を発信した。

10 月　羅東國際青年商會公式訪問団来盛。
「創立60周年記念式典」開催。

11 月　活動報告例会開催。

12 月　卒業式例会開催。テーマ「笑顔」

2013

第61代理事長　浦田　学

いまこそ力強く

～一人ひとりの「市民力」がこのまちの未来をつくる～

1月　新年交賀会開催。理事長所信、事業計画、組織体制を発信。

2月　各委員会の方針や事業内容をお互いに把握する目的で例会を開催。

3月　「What's 市民力」と題し、例会を開催。メンバー自身の市民力を高め、発信できる意識を共有する目的で開催。
「復興創造フォーラム 2013 in 仙台」

4月　「対機コミュニケーション ～ 70 億人に思いを伝えるためのコミュニケーション～」と題し、例会を開催。
様々な価値観や個性を持つ人と合意形成を図るためのコミュニケーション方法の在り方を学んだ。

5月　「働く世代育成セミナー」と題し、例会を開催。
教育環境の現状と課題を知り、より良い家庭環境の在り方を考え、学んだ。

6月　羅東國際青年商會公式訪問団来盛。
羅東國際青年商會姉妹締結45周年式典。
「わんぱく相撲盛岡場所」開催。

7月　「第43回岩手ブロック大会in盛岡　～さぁさ集え! ～夢溢れるいわての未来の為に～」開催。
「参議院議員選挙岩手選挙区立候補予定者公開討論会」を岩手ブロック協議会、県内他 LOM とともに主催。

8月　盛岡さんさ踊りを開催。

9月　「NEXPO　MORIOKA　2013」開催。
日ロ友好事業赤の広場盛岡さんさ踊り派遣事業。
通常総会を開催。

10 月　「コミュニカッチオ!～市民力を分かち合い、このまちに広め、明るい未来を共創しよう～」と題し、例会を開催。
構成する一人ひとりが市民力を備え、これまでの事業で学んだ聴く力・伝える力を実践し習得することを目的とした。
「盛岡まちづくり市民討議会」を盛岡市とともに主催。

11 月　活動報告例会開催。

12 月　卒業式例会開催。テーマ「輝き」

2014

第62代理事長　大泉　勝嗣

Act heartfully!
関心を持って関わり、
行動が変わり、未来が変わる
2014 MORIOKA

1月　新年交賀会開催。理事長所信、事業計画、組織体制を発信。

2月　仮会員候補者が基本方針や事業内容を知って JC 運動への興味と理解を深めてもらうための例会を開催。

3月　「今日からあなたもクリティカる」と題し、例会を開催。複眼的思考（クリティカルシンキング）の基本を学んだ。

4月　～先人に学ぶモリオカンドリーム～と題し盛岡の学生と一緒に盛岡の歴史や盛岡の魅力に触れる例会を開催。グループディスカッションを通じて盛岡の先人から夢や志を学んだ。

5月　羅東國際青年商會公式訪問。
自分の“こころ”を美学（MIGAKU）～日本がもっと好きになる“One Pack!”～と題し、例会を開催。
子供たちの「こころの成長」を促進させる機会となった。

6月　「いつでもあなたはクリティカる」と題し、例会を開催。
3月例会の基本を踏まえ、実践する例会となった。
もりおか上手広げ隊市民参画事業を開催。
第 27回わんぱく相撲盛岡場所開催。
さんさ踊り和太鼓同時演奏世界記録挑戦。練習会から参加している市民の方、盛岡青年会議所会員総勢130名で参加し、見事3437人の記録達成の一助となる。

7月　「Act! for NEXPO MORIOKA 2014」9 月に開催される NEXPO MORIOKA2014 成功に向け LOM 全体に意識を喚起し、メンバー間に一体感を高める例会を開催。
もりおかっていいまち！～もりおカルタで郷土愛を高めよう！ One Pack ～と題し、まちに愛情と誇りを深めてもらう事業を開催。

8月　盛岡さんさ踊りを開催。
第30回わんぱく相撲全国大会。

9月　「you are your city」をコンセプトとして NEXPO MORIOKA 2014を開催。
通常総会を開催

10 月　外山森林公園巣箱清掃と植樹事業開催。
第30回全国JCサッカー選手権盛岡大会開催
国際交流事業「Make a friendship all over the world! ～世界中に友情を広げよう！～」と題し、10月例会を開催。

11 月　活動報告例会開催。

12 月　卒業式例会開催。テーマ「勁草之節」

2015

第63代理事長　岩渕　健二

Let's make use of personality.
共感を起こし、多様性が活き活きとつながる時代へ
2015 MORIOKA

1月　新年交賀会開催。理事長所信、事業計画、組織体制を発信。

2月　仮会員候補者に対して盛岡 JC を発信する例会を開催。

3月　『Let's know 国際貢献～はじめの一歩は understand ～』と題し、例会を開催。
国連ミレニアム開発目標を題材に国際貢献について学んだ。」

4月　「思いやりの心と公共心を昇華しよう」と題し、例会を開催。青少年育成に対する意識喚起事業を行った。

5月　「魅きつける組織へ　～チーム力を活かした組織作り～」と題し、例会を開催。
「Diversity and Inclusion」事業を行った。

6月　「あなたがまちのプロデューサー！伝えたいまち『もりおかって〇〇！』」
盛岡広域圏在住の留学生や学生の皆さんにご参加いただき、例会を開催。
第28回わんぱく相撲盛岡場所開催。

7月　カシオペアJC主管による岩手ブロック大会に移動例会として参加。
羅東國際青年商會公式訪問団来盛。

8月　盛岡さんさ踊りを開催。
「盛岡市長選挙立候補予定者公開討論会」開催。

9月　通常総会を開催。
「もりおかをタシナモウ♪ NEXPO MORIOKA 2015」開催。

10 月　出向者連絡会議を例会として開催。
自然体験交流事業として、外山森林公園巣箱清掃事業開催。

11 月　活動報告例会開催。

12 月　卒業式例会開催。テーマ「承前啓後」

2016

第64代理事長　高橋　一仁

Make a Step Together
～豊かな心がまちに笑顔を生む～

1月　新年交賀会開催。名誉会員である達増拓也岩手県知事をはじめ、過去最多の出席人数で開催。

2月　当年の方針や、運動の展開方法をメンバー全員で共有する為のキックオフとして例会を開催。

3月　「大人の教育」～大人が変われば子供が変わる～と題し、自分たちの意識の醸成と行動喚起の機会を提供するための例会を開催。

4月　相手の思いやる心を持ち、互いの価値観を高めあうコミュニケーション能力を育成し、未来を創造していく人材を創造していくための例会を開催。
羅東國際青年商會公式訪問。

5月　第1回 JC カップ U－11 少年少女サッカー盛岡フェスティバルを例会として開催。16チームが参加。

6月　盛岡市が目指す将来像をもとに、もりおかの未来を構想する例会を開催。
第29回わんぱく相撲盛岡場所を開催。

7月　様々な角度から盛岡 JC の楽しさを知るきっかけとなる「メンバー 100% 参加例会！ JC 脳内革命～謎解きは例会のあとで～」を開催。

8月　和太鼓同時演奏者数の世界最多のギネス記録を持つ「盛岡さんさ踊り」を主催団体の一つとして携わり、開催。

9月　盛岡 JC と日本・東北地区・他ブロックとの違いを出向者から聞き、出向への理解と興味を深めるために 9 月例会を開催。
外山森林公園巣箱清掃を開催。

10 月　世代を超えた繋がりを目的とし、多くのOB先輩を招いた交流例会の10月例会を開催。

11 月　活動報告例会開催。

12 月　卒業式例会開催。テーマ「光り輝く未来へ」

盛岡JC組織ビジョン

JCI MORIOKA Organization Vision

多様性を享受し、人間力を高め合いながら、
まちの未来をより良く繋いでいく組織

JCI MORIOKA Organization Mission

- 個々人の人間力を高めること
- 組織を活性化させ、より良いまちづくりに寄与していくこと
- 会員同士の信頼関係を強固なものにすること

2017

第65代理事長　**波紫　裕司**

「我がこと」が
未来を変える

2017年度 役員

理事長	波紫　裕司
副理事長	中野　美知子
副理事長	坂東　学
副理事長	雫石　貫太郎
副理事長	田貝　裕之
専務理事	伊藤　淳之介
室長	宮野　祐樹
室長	津田　徳明
室長	鎌田　修司
室長	箱崎　渡
室長	日影　直人
常務理事	藤原　大修
委員長	松本　陽吉
委員長	川村　卓也
委員長	本宮　貴浩
委員長	小笠原　優
委員長	大和田　祐輔
委員長	及川　尚宏
委員長	工藤　尚
出向理事	浅沼　智之
事務局長	髙橋　潤(14)
事務局次長	池野　利彦
事務局次長	佐藤　透
事務局次長	鈴木　俊太郎
監事	安達　智彦
監事	石井　仁
監事	佐藤　優
直前理事長	髙橋　一仁

1月　新年交賀会を開催。「我がこと」力強く発信。65周年記念の結束。

2月　異業種交流会を開催。青年経済人の交流を活発にし、出会いと学びの機会に。

3月　「大人の本気が子供を変える」と題し、バディスポーツ幼児園園長であられる鈴木威氏をお招きし子供の模範となる行動について講演頂く例会を開催。

4月　「一人ひとりがリーダー」～魅せましょう、あなたのビジョンを～と題し、盛岡JCメンバーのリーダーとしての資質向上を目的とした例会を開催。
49年を迎える台湾・羅東JCとの交流をさらに深める為に、台湾羅東の勉強会を開催。
「ぼくらのまちづくりアカデミー第1講座」～理想のまちをこの手でつくる～と題し、まちづくりの企画や、事業を率先して行える魅力あるまちづくりリーダーを育成する為の事業を、市民を交えて開催。

5月　「ひろがる・つながる JC 運動～レッツスタディ広報！～」と題し、広報力向上につなげる例会を開催。
第 2 回 JC カップ U-11 サッカー盛岡フェスティバルを開催。

6月　「MOROKA INTERNATIONAL SCHOOL ～国際交流を楽しもう～」と題し、未来の担い手である小学生が、盛岡在住の外国人の方と直接会話を交わし、国境を越えたコミュニケーションの楽しさを体験する例会を開催。
第30回わんぱく相撲盛岡場所を開催。

7月　「ぼくらのまちづくりアカデミー第 2 講座」～理想のまちをこの手でつくる～と題し、まちづくり企画や、事業を率先して行える魅力あるまちづくりリーダーを育成する為の例会を、市民を交えて開催。

8月　第40回盛岡さんさ踊りを開催。
創立50周年を迎える羅東國際青年商會への公式訪問。

9月　「通常総会」開催。
「一人ひとりがおもいやりリーダー～実践しよう、あなたのリーダースタイル～」と題し、盛岡JCメンバーの資質向上に向けた例会を開催。
「ぼくらのまちづくりアカデミー第 3 講座」～理想のまちをこの手でつくる～と題し、まちづくりの企画や、事業を率先して行える魅力あるまちづくりリーダーを育成する為の事業を、市民を交えて開催。

10月　羅東國際青年商會公式訪問団来盛。
「盛岡青年会議所創立65周年記念式典及び記念祝賀会」を開催。

11月　2017年度活動報告例会開催。

12月　卒業式例会開催。

「ぼくらのまちづくりアカデミー」
～理想のまちをこの手でつくる～第 3 講座

6月例会
「MORIOKA INTERNATIONAL SCHOOL
～国際交流を楽しもう～」

わんぱく相撲盛岡場所
30周年記念事業

羅東國際青年商會訪問団来盛

2018

第66代理事長　中野　美知子

明日に、一粒の種を蒔こう
～生きる力が漲る社会へ～
2018 morioka junior chamber inc.38

2018年度 役員

理事長	中野　美知子
副理事長	宮野　祐樹
副理事長	髙橋　数馬
副理事長	田貝　裕之
副理事長	伊藤　淳之介
専務理事	内山　宏太郎
室長	本宮　貴浩
室長	川村　卓也
室長	小谷地　麻里
室長	藤原　大修
室長	箱崎　渡
常務理事	日影　直人
委員長	佐藤　透
委員長	髙橋　潤(14)
委員長	照井　和弘
委員長	服部　達
委員長	田屋舘　真留久
委員長	豊岡　淳
委員長	津田　徳明
出向理事	成瀬　肇
事務局長	髙橋　潤(16)
事務局次長	神山　光司
事務局次長	吉田　将太
監事	鎌田　修司
監事	雫石　貫太郎
監事	坂東　学
直前理事長	波紫　裕司

1月　新年交賀会を開催。「明日に、一粒の種を蒔こう～生きる力が漲る社会へ～」をスローガンに掲げ、個々人が変化と成長を求め、尊重と理想を通じた認め合いから「明るい豊かな社会」実現をするべく、市民意識変革運動を発信。

2月　「今、JC 活動をするキミへ」と題し、組織の発信力の強化のため、盛岡青年会議所の運動の価値を理解して、どのような運動を展開していくかを会員一同で共有する機会となる例会を開催。
「もりおかの街を走って、まちの魅力を発見する」というコンセプトものと、「もりおか　まちラン2018」を2月～12月にかけて開催。
第１回異業種交流会を開催。

3月　「南部家から学ぶまちの歴史と文化」と題し、126名の一般参加者と共にもりおかの歴史について理解を深め郷土愛を育み、魅力を発信する契機となる事業を開催。
羅東國際青年商會姉妹締結50周年記念碑建立。

4月　市民、行政、企業の方々と共にCSVの考え方を用いながら、地域課題解決へ向け考える、まちづくり創造事業「まちファイⅠ」を開催。
第3回JCカップU-11少年少女サッカー盛岡フェスティバルを開催。
第2回異業種交流会を開催。

5月　国際交流について理解を深める場として５月例会「グローバルアカデミー」を開催。

6月　第31回わんぱく相撲盛岡場所を開催。
まちづくり創造事業「まちファイⅡ」を開催。

7月　「羅東青年商會との姉妹 JC交流」として台湾の羅東を訪問。10名の中学生と共に羅東國際青年商會姉妹締結50周年記念事業 KAKEHASHI を開催。

8月　盛岡さんさ踊りを開催。

9月　出向の価値をメンバーで共有する機会となる９月例会出向者連絡会議を開催。

10月　10代～30代の若年層が、有権者として選挙や政治参画の意義を認識していただく契機として 10月例会「～まちの未来は私たちが創る～」を開催。

11月　2018年度活動報告例会を開催。
盛岡市立大宮中学校にて職業観育成事業を開催。

12月　「未来へ繋ぐ」をテーマに12月例会卒業式を開催。

３月例会　歴史・文化研究事業
～南部家から学ぶまちの歴史と文化～

10月例会　青少年育成事業
～まちの未来は私たちが創る～

羅東姉妹締結50周年事業
「KAKEHASHI」

羅東國際青年商會
姉妹締結50周年記念碑建立

2019

第67代理事長　伊藤　淳之介

Be the Reason for that Smile
～ 成熟と革新が融合する社会へ ～

2019年度 役員

理事長	伊藤　淳之介
副理事長	髙橋　数馬
副理事長	津田　徳明
副理事長	内山　宏太郎
副理事長	宮野　祐樹
副理事長	田貝　裕之
専務理事	藤原　大修
室長	土樋　梓
室長	松本　陽吉
室長	日影　直人
室長	豊岡　淳
室長	佐藤　透
常務理事	小谷地　麻里
委員長	吉田　将太
委員長	浅沼　智之
委員長	池野　利彦
委員長	谷藤　大樹
委員長	緑川　貴洋
委員長	鳥居　誠
出向理事	藤澤　達彦
出向理事	大和田　祐輔
出向理事	田屋舘　真留久
事務局長	佐藤　卓道
事務局次長	川村　芳仁
事務局次長	松浦　直人
事務局次長	松本　恭史
監事	成瀬　肇
監事	箱崎　渡
監事	坂東　学
直前理事長	中野　美知子

1月　新年交賀会を開催。「Be the Reason for that Smile ～成熟と革新が融合する社会へ～」をスローガンに掲げ、新体制のもと活動をスタートする。

2月　盛岡広域圏で活動している他団体や企業の方々と交流を図り、今後の「まちづくり」「ビジネス」に新たな価値を創出すべく２月例会「異業種交流会」を開催。

3月　「もりおかで活躍できる人材へ!」をテーマに盛岡青年会議所の会員が、まちの発展に寄与できる人材へと成長していけるよう、全３回の仮会員オリエンテーションの初回となる事業を開催。

4月　第４回JCカップU-11少年少女サッカー盛岡フェスティバルを開催。

5月　「磨く国際感覚～石も磨けばダイヤモンド～」と題し、国際感覚育成事業を開催。

6月　第32回わんぱく相撲盛岡場所を開催。

7月　盛岡青年会議所の強みや価値をメンバー同士が共通認識をすることで、ブランディングの向上につなげるべく、７月例会「ブランディングロード～アイコンみっけ～」を開催。
羅東國際青年商會との姉妹 JC 交流として羅東國際青年商會のメンバーが来盛。

8月　第42回盛岡さんさ踊りを開催。羅東國際青年商會のメンバーや「KAKEHASHI」事業で来盛している台湾の中学生、盛岡に住みながら障がいを持っている方々も共に参加した。
公正中立を前提に、盛岡市民に対し、適切な判断を選択の場を提供する機会とするべく「盛岡市長選挙公開討論会」を開催。

9月　次世代育成事業「What do you work for?」と題し、これからの社会で求められる人材と能力を知り、ひとり一人が理想とする社会を描くことで将来の職業や生きる動機を考える機会を提供した。
出向者連絡会を開催。

10月　政府の掲げる近未来ビジョン『Society5.0』を中心に革新技術は身の回りの課題を解決することができる新たなツールであることを認識していただく事業を開催。

11月　2019年度のスローガン「Be the Reason for that Smile」のもと、成熟と革新が融合した社会を実現するべく、展開された運動及び活動が、周囲の人々に対しどのような変化を促したのかを会員全体で共有するべく「2019年度活動報告例会」を開催。

12月　テーマを『飛躍』と掲げ、卒業生、新入会員、現役会員が価値を礎に、住み暮らすまちに笑顔を生み出す存在へと私たち一人ひとりが飛躍を遂げる機会とするべく12月例会卒業式を開催。

２月例会　異業種交流会

KAKEHASHI
台湾中学生受け入れ事業
ホームビジット

持続可能な地域づくりとは!?
～行動が未来につながる～

盛岡さんさ踊り　出張さんさ

2020

第68代理事長　宮野　祐樹

HERO
～笑顔溢れる希望に満ちた未来を～

2020年度 役員

理事長	宮野　祐樹
副理事長	佐藤　透
副理事長	松本　陽吉
副理事長	藤原　大修
副理事長	豊岡　淳
副理事長	髙橋　数馬
専務理事	日影　直人
室長	髙橋　潤(14)
室長	吉田　将太
室長	田屋舘　真留久
室長	照井　和弘
室長	服部　達
室長	佐藤　卓道
常務理事	大和田　祐輔
委員長	松本　恭史
委員長	立花　唯
委員長	松浦　直人
委員長	向井　誠
委員長	三浦　崇
委員長	山口　雄司
出向理事	北條　宏
出向理事	本宮　貴浩
事務局長	鈴木　美穂
事務局次長	小倉　征也
事務局次長	田向　康人
事務局次長	米内　紘正
監事	小谷地　麻里
監事	田貝　裕之
監事	津田　徳明
直前理事長	伊藤　淳之介

1月　新年交賀会を開催。「HERO ～笑顔溢れる希望に満ちた未来を～」スローガンに掲げ、新体制のもと活動をスタートする。

2月　2月例会「SDGs×交流会」と題し、SDGsに関心を持つ青年経済人が集い、交流会を開催。

3月　地域コミュニティ創造事業「希望溢れる地域コミュニティの未来へ」と題し、課題解決に向けた地域コミュニティの在り方や関わり方を考える事業を開催。

4月　新型コロナウイルス感染拡大のため事業を中止。

5月　新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発令されたため、動画配信形式で5月例会ブランディング確立事業を開催。
國際社会創造事業～台湾と姉妹JC交流を知ろう～と題し、姉妹JC交流の価値を理解する事業を開催。

6月　「カッコいい大人への道」と題し、次世代を担う若者を育成できる人材になるために、アントレプレナーシップを理解する例会を開催。

7月　「Change for growth and global ～今、これからを考えるとき～」と題し、世界と日本の繋がりを知り、国際的な観点を持って、グローバルシチズンシップを認識し高める事業を開催。

8月　「盛岡さんさ踊り 2020 with コロナバージョン～もりおかの想いを今、夏の夜空に～」と題し、盛岡市大通を中心にオンライン上での盛岡さんさ踊りパレードと打ち上げ花火を実施。
マリ共和国勉強会「盛岡青年会議所× SDGs」を開催。
未来へつなげる地域の絆プロジェクトを発足。

9月　大宮中学校職業観育成事業を開催。

10月　「国際社会創造事業～未来の日本を創る思考～」を開催。
盛岡広域ビジネス総合サイト「輪～R in」を開設。
未来へつなげる地域の絆プロジェクトを実施。

11月　今の時代だからこそ考え、行動し、自身の思い描く未来に向かって一歩を踏み出す勇気を持つための、次世代育成事業「今、次代が変わる」を開催。

12月　新型コロナウイルスが猛威を振る中、これからも地域を牽引するリーダーとして、新たな未来を切り開き、創造していくことを祈念し、テーマを『みらいを創る』と掲げ、12月例会卒業式を開催。

SDGs×交流会

マリ共和国学校建設募金活動

盛岡さんさ踊り2020
with コロナバージョン
～もりおかの想いを今、夏の夜空に～

大宮中学校職業観育成事業

2021

第69代理事長　田屋舘 真留久

強く、優しく

～誰もが理想の未来を描き、
挑戦できる社会へ～

2021年度 役員

理事長	田屋舘 真留久
副理事長	吉田 将太
副理事長	藤原 大修
副理事長	服部 達
副理事長	豊岡 淳
専務理事	大和田 祐輔
室長	照井 和弘
室長	鳥居 誠
室長	髙橋 潤(16)
室長	山口 雄司
室長	立花 唯
常務理事	池野 利彦
委員長	佐々木 裕一
委員長	沼田 悟
委員長	瀬川 瞬
委員長	小倉 征也
委員長	道下 剛史
出向理事	髙橋 潤(14)
出向理事	米谷 猛
出向理事	今野 洋介
事務局長	北條 宏
事務局次長	里 裕一
事務局次長	鈴木 七恵
事務局次長	中嶋 政裕
監事	菅原 一法
監事	土樋 梓
監事	松本 陽吉
顧問	伊藤 淳之介
直前理事長	宮野 祐樹

1月　新年交賀会をオンライン配信で開催。「強く、優しく～誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会へ～」をスローガンに掲げ、活動をスタートする。

2月　「SDGsで考えるこれからのまちづくり」と題して、SDGs推進に取り組む契機となるセミナーをオンラインにて開催。

3月　今後、展開する運動の更なる向上や発信力を強化すべく３月例会「組織のための情報リテラシー講座」を実施。

4月　羅東國際青年商會と、お互いの価値観や地域特性の違いや共通点を理解し合い、パートナーシップを構築する契機とする４月例会事業を開催。

5月　次世代育成事業「自分の未来を描いてみよう」を開催。

6月　第33回わんぱく相撲盛岡場所を開催。

7月　国際交流に関心を持ち、SDGsの達成に向かって共に行動する契機とする国際社会創造事業を開催。

8月　盛岡青年会議所が現在に至るまで主催団体の一つとして関わり続けている盛岡さんさ踊りについて、これまでの様々な取り組みや、そこに込められた熱い想いを共有する地域の魅力創造事業を開催。

9月　出向者連絡会議をオンラインで開催。

10月　新型コロナウイルス感染症が盛岡広域圏の各市町に与えた影響や、それぞれが抱える課題について把握し、その解決策について学生や市民と意見やアイデアを出し合い共有する「まちの未来創造事業」を開催。
「OB先輩と現役メンバーとの交流会」を開催。
経済文化交流会議をオンラインで開催。

11月　2021年度のスローガン「強く、優しく～誰もが理想の未来を描き、挑戦できる社会へ ～」のもと、2021年度の活動が社会に対して、どのように前向きな変化を生み出したのかを会員全体で共有すべく、「2021年度活動報告例会」を開催。

12月　テーマを「挑戦～共に明日を切り拓く～」と掲げ、12月例会卒業式を開催。

盛岡さんさ踊り練習会

AWARDS JAPAN 2021 受賞

クリスマス会

異業種交流会

2022

第70代理事長　大和田　祐輔

幸福へ向けて一歩を踏み出そう

～全てのひとが幸福を実感できる社会へ～

2022年度 役員

理事長	大和田　祐　輔
副理事長	山　口　雄　司
副理事長	池　野　利　彦
副理事長	照　井　和　弘
専務理事	髙　橋　　潤 (14)
室　　長	佐々木　裕　一
室　　長	松　浦　直　人
室　　長	立　花　　唯
委員長	中　嶋　政　裕
委員長	山　内　圭　介
委員長	菅　原　直　紀
委員長	小野寺　数　馬
委員長	里　　裕　一
出向理事	川　村　芳　仁
事務局長	髙　橋　　凌
事務局次長	瀬　川　天　子
事務局次長	照　井　淳　史
事務局次長	福　田　和　晃
監　　事	豊　岡　　淳
監　　事	服　部　　達
監　　事	藤　原　大　修
顧　　問	伊　藤　淳之介
直前理事長	田屋舘　真留久

1月　新年交賀会を開催。「幸福へ向けて一歩を踏み出そう～全てのひとが幸福を実感出来る社会へ～」をスローガンに掲げ、新体制のもと活動をスタートする。

2月　「ビジネスマッチングセミナー」と題し、参加者同士の繋がりを深め、ビジネスの機会を得ることを目的として2月例会をオンラインにて開催。

3月　情報を多角的な視点で捉える力を養うべく、「広報戦略事業～情報は多角的な視点で～」をオンラインにて開催。

4月　国際社会創造事業「世界で起きている人権問題・環境問題～私たちにできる国際協力～」と題し、世界にある人権問題や環境問題と自らが関わっている認識をするために4月例会をオンラインにて実施。

5月　次世代育成事業「新たな可能性を切り拓こう !!」を実施。

6月　創立70周年事業　第34回わんぱく相撲盛岡場所を開催。

7月　地域社会との繋がり根底に据えた幸福を目指し一歩を踏み出すことを目的とし、7月例会まちの未来創造事業「わたしの幸せからわたしたちの幸せへ～幸福になる地域づくりをめざして～」を実施。

8月　創立70周年記念事業　第45回盛岡さんさ踊りを開催。

9月　出向の経験を共有する機会とするため、9月例会「出向者連絡会議」を開催。

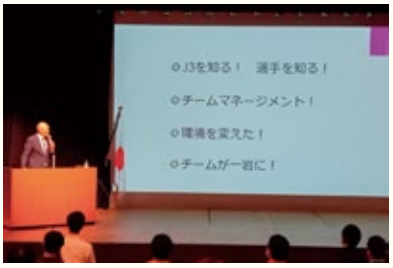
10月　盛岡青年会議所創立 70周年記念式典を開催。

11月　2022年度のスローガン「幸福へ向けて一歩を踏み出そう～全てのひとが幸福を実感できる社会へ～」のもと、2022年度の活動が社会に対して、どのような前向きな変化を生み出したのかを会員全体で共有すべく、「2022年度活動報告例会」を開催予定。

12月　テーマを「New HORIZON ～新たなステージへ～」と掲げ、12月例会卒業式を開催予定。

5月例会次世代育成事業

5月事業まちの未来創造事業



7月例会

第２回次世代育成事業

創立70周年記念特別企画Ⅰ

第65代～第70代
理事長座談会

創立70周年記念特別企画Ⅰ

第65代～第70代

理事長座談会

テーマ『多様性と人間力』

2012年に一般社団法人へ法人格移行して、本格的に一般社団法人盛岡青年会議所としての運動が始動しました。その後、2015年９月にSDGsが国連総会で採択され、多様性という概念が再注目されました。また、2020年から始まったコロナ禍によって、人間の尊厳を尊重することや多様性を享受することなど人間としての本質が見つめ直されています。そこで本座談会では『多様性と人間力』をテーマとして歴代理事長の皆様に、現役メンバーが青年会議所運動に尽力する決意を更に強固にするお話を頂戴いたしました。

■ 出席者

2017年度	第65代理事長	波　紫　裕　司
2018年度	第66代理事長	中　野　美知子
2019年度	第67代理事長	伊　藤　淳之介
2020年度	第68代理事長	宮　野　祐　樹
2021年度	第69代理事長	田屋舘　真留久

■ 進行役

2022年度	第70代理事長	大和田　祐　輔

大和田理事長　創立70周年を迎えるにあたり記念誌を発行する運びとなりました。そこで、2017年から21年までの歴代理事長5名にお集まりいただきました。本日は誠にありがとうございます。

皆様には、

①「盛岡 JC 組織ビジョン」の策定に至った理由や当時の想い

②各年度の振り返り（新型コロナウイルスによる影響も含めて）

③現役メンバーへのメッセージ

の3点について「多様性」「人間力」「ビジョン」をキーワードとしてお話しいただきます。

それでは早速、盛岡 JC 組織ビジョン策定に至った理由や当時の想いを教えてください。

― ①「盛岡 JC 組織ビジョン」策定に至った理由や当時の想い ―

波紫先輩　前提として2017年は今と社会環境が違っていました。日本青年会議所が2010年に公益社団法人格に移行したことを踏まえて、盛岡青年会議所は一般社団法人として、公益事業の可能性を模索していました。そして2016年に私が委員として関わった「未来特別委員会」の中で、単年度制のメリットとデメリットを、中長期で捉えた方が良いだろうという意見がありました。ロジカルに考え、これまで当たり前だと思っていたことを振り返り、見直し検証する必要があるという意識が高まっていました。例えば、組織内の人事についても、職種や年齢別に理事を経験した回数を調べるとか、入会後に何年でどの役職をやったとか、様々なことを数字として正確に把握し、しっかり検証してこれまでの単年度制の良い面と合わせ、中長期ビジョンで組織を運営することが、未来に繋がるのではないかと感じていました。また、盛岡青年会議所は女性が多いLOMだねとどこへ行ってもよく言われていました。ですから女性目線で女性メンバーの活動の在り方についてだとか、いろんなことを調べて議論してもらうことからスタートしました。

中野先輩　当時、盛岡青年会議所自体が、目的や存在について、漠然としていましたね。遡ると、東日本大震災の復旧復興を乗り越えたJCの役割がありましたが、6 年が経過しようとしているときに、何を求められている組織なのか全く見えなくなってきていましたね。

　みんな、すごく楽しそうに活動しているし、やることはやってはいるけれども…。じゃぁ、それが最終的に何のためにやっているのか…。まちのためとは言っているんですが、社会でどういう役割を担っているのか、きちんと分析した上で今後に繋げていきたいよね、という流れになりました。そこで当時の波紫理事長の考えを受けて、どのように分析をしていくのか、という感じで取り組んでいった記憶があります。最終的に「盛岡JC組織ビジョン」という形に残して、今後5年間、盛岡青年会議所ってこういう組織でありたい、あり続けたいよね、と描く未来をみんなで話し合ったと記憶しています。

伊藤顧問　組織ビジョンを作っているLOMがあることを調べて知りました。組織ビジョンを作るということは盛岡青年会議所を大事にしていることになりますね。これまでの情報を整理しながら、これから5年の「盛岡JC組織ビジョン」を作って、ビジョンに向かって頑張ろうっていう流れが一番良いよねって話をしました。一方で、その年の理事長所信が、組織の目指すビジョンなんだから、組織ビジョンを作る必要はあるのか？という反対の意見も一部ありましたね。けれども組織としてのビジョンと、「明るい豊かな社会」のビジョンは、両輪でやっていけるものだから、「盛岡 JC 組織ビジョン」と「理事長所信」は共存できるという結論になったと記憶しています。

宮野先輩　当時、みんなよく多様性を口にするようになった頃じゃなかったかなぁと思います。僕らの組織がこれからもっと良い組織になっていくために、どうやったら会員の力を活かしていけるのか、本気で考え始めた頃かなぁという記憶があります。

伊藤顧問　そうですね。多様性がある組織だからこそ、人間力をお互いに高め合う組織でありたいということで、作っていました。

中野先輩　組織としてすごくいいものを持っているのに、それを活かしきれてないんじゃないかって言っていましたね。

波紫先輩　それこそ、盛岡青年会議所の在籍122人に対して女性の人数が20人以上で日本一の割合と周りから言われるのに、なぜ女性が多いんですか？と聞かれると…。

伊藤顧問　私たち自身、理由がわかっていなかったですね。

波紫先輩　女性の社会進出の増加や多様性という考えが浸透してきている中で、盛岡青年会議所としては障がい者についても意識が拡がっていたように思います。

伊藤顧問　ちょっと苦い思い出があって、確か2015年です。移転前のJC ルーム（川徳前）で、車イスの方が入会したいという申し出があったのですが、車イスで4階まで上がるのは大変だからと入会を諦めてしまったということがあって…。

　それこそダイバーシティーインクルージョンって言っているのにできていない、障がいのある方でも入会して活躍ができる組織を作っていきたいよねっていう話もありました。

中野先輩　そもそも多様性を理解することが、議論の入り口だったのだと思います。

伊藤顧問　多様性を理解しなければ、拡大はうまくいかないですよね。

　当時「盛岡JC組織ビジョン」を盛岡青年会議所全体で考えた効果が、徐々に現れています。2017年度のスローガン『「我がこと」が未来を変える』の「我がこと」がずっと響いています。さらに2018年度のスローガン『明日に、一粒の種を蒔こう』の「種蒔き」ってどうすべきなのか考える。というように年度を積み重ねるからこそ、2017年に考えた「盛岡JC組織ビジョン」の理解が深まることを実感していますね。

大和田理事長　逆に「盛岡JC組織ビジョン」があるから 2019、20、21 年度のスローガンの理解が深ま

りますし、気づきがたくさんあります。遅れてその大事さに気づくこともあるから「盛岡JC組織ビジョン」は組織が目指す方向として定める意義があったと実感します。

伊藤顧問　このまちのビジョンを作ろうという気持ちなら、毎年ビジョンを更新していくべきかもしれない。私たちの考えるべき「盛岡JC組織ビジョン」とはちょっと違いますよね。

波紫先輩　組織ビジョンにある人間力という言葉も、日本青年会議所では以前から使っていましたが、私たちが考える人間力とは概念が少し違いましたね。スーパーマン的な人ではなく、自立している人、そもそも人間としての影響力とは何か、「人間力とは何か」っていうところから考えましたね。

伊藤顧問 そうでしたね。話し合う焦点として「人間力とは何か」「多様性とは何か」その言葉の定義一つ一つをメンバーが提言してくれました。その定義を意思統一した状態でブラッシュアップしていきましたね。

波紫先輩　まさに委員会での一つひとつの意見の中から生まれたのが「盛岡JC組織ビジョン」でした。理事長としては驚きでした。

大和田理事長　私は2017年に委員長だったので、未来構想特別委員会の皆さんが盛岡青年会議所のありたい姿をこのように描いているのだなと強く感じたことを記憶しています。

田屋舘直前　私も盛岡JC組織ビジョンの策定に携わっていないですが、多様性と言えば私が2017年に日本青年会議所に出向させてもらっていた国際アカデミー委員会は、女性メンバーが多いパワフルな委員会でした。約80カ国からデリゲイツが来ていて。国籍はボーダレス、その約半数が女性で、まさに多様性ってこういうことだよ、とリアルに体感できたのは大きいと思います。

それと、今日の策定された経緯を聞いていて思い出したのが、ビジョンの大切さについて、大和田理事長が委員長だった2017年度の4月例会でやりましたね。多様な人がいる中で、同じ方向を見て一緒に行動すると、すごいパワーを得られる。だからビジョンが必要なんだよっていう例会だったと思います。だからこそ2021年の理事長所信の中でも、「同じ方向を見てみんなで一緒にやろうよ、そしたらすごいパワー得られるから、何でもできるよ」っていう所信を書かせてもらいました。人間力って、そもそも多様な人との関わりから得られるものなので、1年1年スローガンを積み重ねてきたからこそ盛岡JC組織ビジョンは自分の中で影響されていると実感するし、当時の未来構想特別委員会の皆さんが熟慮して策定してくれたのだと改めて思います。

波紫先輩　私としては嬉しいお話でしたね。作戦通りなんですよ（笑）4月に入った人が、例会を見て肌で感じながら…。それが盛岡青年会議所の在り方なのだなって思う。

中野先輩　2000年代に言われていた人間力と2010年代の人間力は、少しニュアンスが違っている気がします。多様性の認識が変わったのと同じくらい違う。個人が発揮する力の凄さは一緒だけど、他者に対する気持ちや想いが含まれた分、意味合いはちょっと違うんですよね。そうやって時代とともに変わっていくものだから、2017年から5年の変化がすごく大事だと感じていました。組織を維持しなきゃいけない危機感もあって課題抽出しながら決めていきました。

伊藤顧問　だから2019年は拡大も「盛岡JC組織ビジョン」に沿って、何人いるLOMになりたいかの目標が必要だと考えるようになりましたね。単年度で考えるのではなく、新規入会者が30人に届くように動きました。

中野先輩　何人いれば、盛岡青年会議所がやりたいことをやれるのか、予測することにつながりますよね。

大和田理事長　2022年度の会員拡大は、ここ数年の声かけの成果が今年になって実っています。声をかけられた当時は入会に至らかった人が、今年「入会させてください」と参加しているケースが多くありました。

波紫先輩　そりゃすばらしい！

中野先輩　それは、私たちが蒔いた種が、きちんと刈り取られた成果だね（笑）

波紫先輩　拡大に関しては、このような組織的な対策は当時から必要だと思っていたってことですね。正解でしたね。委員長や理事が100％の力を発揮しても難しいこともあるけど、次の年に刈りとれることもある。実際、先輩方が卒業後に、入会の可能性がある人に声をかけていただいたおかげで、入会に至

第65代理事長　波紫　裕司

っているとかってあるじゃないですか。

中野先輩　最終的に「盛岡JC組織ビジョン」の結果論として5年後をどのように導くかっていうことも大切。だけど、組織として話し合いができたっていうこと、考えを整理する場があって、そのプロセスを深めたことの方がすごく大事だったなと思う。それがあったから、「盛岡JC組織ビジョン」ができたし、そういう積み重ねが、それぞれの理事長を誕生させて、70周年につながったのかなという感じがします。

伊藤顧問　かなりガチでディスカッションしていましたもんね。

波紫先輩　ある意味自由にやれたと思います。でも、そんな委員会の姿やプロセスを、もう少し周りに見せられればよかったんだろうなぁと思います。

― ② 各年度の振り返り（新型コロナウイルスによる影響も含めて）―

大和田理事長　ここからは年度ごとに振り返っていただきます。2017年はいかがでしたか？

波紫先輩　5年後の今、振り返ってみると、僕らの時は全国からも注目されるような感じでした。それこそ、最初にも言ったように女性メンバーが多いことについて、各地でインタビューを受けたりとか、全国で紹介されたりとか。活動に関しても、所信を皆が意識してくれていた。最後まで口にして、貫き通してくれている、すごい組織だなって感じました。

伊藤顧問　常任理事会の議論の中で必ず言われていたくらい、インパクトがあるスローガンでした。組織も事業も「我がこと」として1年間やってきた。

中野先輩　外部の人からも「我がこと」っていうテーマでやっているんですよねって言われましたもんね。

波紫先輩　自分のことのように考えたら？って、言われたことから、「我がこと」っていう言葉が生まれたのだけど、実践してこそなんですよね。

伊藤顧問　地道に、立ち返ってやるべきことをやろうっていうのが波紫先輩のお考えだったのかなぁと今も思っています。

波紫先輩　シンプルな考え方が分かりやすくて良かったのだと思います。皆が、それぞれの多様な考えの中で意識できたと思います。本当に所信に忠実に活動する組織なのだなって改めて思いました。所信の力を感じました。

最後に、創立65周年の年だったこともあり、盛岡青年会議所は先輩方や他団体も含めて、どこにも負けないって思えるくらいすごく強い繋がりがある組織だなと感じる1年でした。

大和田理事長　2018年度はいかがでしたか？

中野先輩　所信に書いた「種蒔き」のイメージは、みんな同じ立ち位置だけれども、それぞれの個性を生かして個性を可視化し、特性を活かして活躍できる場を見つけられたならいいよねっていう意味でした。この「種蒔き」の考えは、多様性の考えに近かったです。そして、女性理事長っていうだけで、単純に注目を浴びました。時代が背中を押してくれていて、新聞にも取り上げられるし。ただ、そのことに自分自身もどこか違和感がありました。一方で、盛岡青年会議所を前面に出していけるのなら別にいいかなって、営業マン精神みたいなのもあって。2018年度は、その違和感を解消しようと模索した1年だったと思います。今はもう少し女性の社会進出への理解が進んできていますが、2018年度で多様性はまだ共通言語ではなかったと思います。組織の中では通じていたかもしれないけど、外部の方には多様性を理解してもらいにくいって、すごく感じていて。今では、いろんな多様性の可能性を拡げている企業や組織が活躍し始めていますよね。

私、子供を産んでから、女性の中でも多様な生き方があるって感じています。お母さんになった女性の感じ方と、仕事で切り拓こうという女性の感じ方は、見ている景色が違うんだなって痛感しています。だから、女性か男性かという分け方だけじゃないんですよね。一人ひとりの人間の力は何なのか、その分け方に、たまたま女性とか障がいとか国籍とか年齢とか、条件が当てはまっているだけなんじゃないかって感じられるようになりました。一人ひとりが全く違う人間だからこそ活かせるものは何なのか、っていうことを考えていかなきゃいけないと思います。2018年度で自分が考えていた課題に、卒業してからまた別の答えが見つかったような気もします。当時の社会は女性が出てくると、まだ特異的な見方をされる時代だったように思います。多様性を考えたとき、自分の中で一番納得したことは「種蒔き」で、種を蒔いて

第66代理事長　中野　美知子

未来では多様性が当たり前になる社会になって欲しいなと思っていたんです。それが2018年度だからこそできた投げかけだったと今は思います。

波紫先輩　2018年は羅東JCとの姉妹JC締結50周年で、誰もやったことない前例がないことをやりましたね。

伊藤顧問　羅東との関係は2017年、2018年を経て、また一つ次の段階に入れましたね。

羅東との関係は、まずLOM同士で繋がって、それから徐々に個人間、地域間に拡がって最終的にはKAKEHASHIで次世代が繋がりました。それから更に拡がってマリの識字学校建設プロジェクトに繋がったから、やっぱり50年を経て次の段階に入ったんだろうなと実感しています。

大和田理事長　2019年のKAKEHASHI受入は、次世代だけじゃなくメンバーの家族に拡がったのがすごく印象的です。

中野先輩　それは、本当に語り草です(笑)

伊藤顧問　台湾に対してネガティブな感情もっていたメンバーの家族が、ホームビジットで家に迎え入れたことによって一気に印象が変わって、台湾を大好きになって。その影響が他の家族にも拡がってということがありましたね。

宮野先輩　マリの識字学校建設プロジェクトと言えばAWARD JAPAN 2021でグランプリを獲得することもできましたね!

伊藤顧問　長かったですね。2012年からアワードに関わってグランプリ取るまで10年かかりました。

中野先輩　これも長年かけて蒔いた種で花が咲いた瞬間ですね。

大和田理事長　お話が2019年に入りました。2019年度はいかがでしたか?

伊藤顧問　2019年度は前提として、「我がこと」と「種蒔き」のコンセプトを大事にしなきゃと思っていました。社会に多様性という言葉が浸透し始めていたようにも感じます。このころ、叫ばれ始めたSDGsは私にとって、多様性を行動に移すものだと感じていました。また、メンバーに「社会的に意義のある事業をやっているんだ」と実感してもらいたいとも思っていました。だからこそ、盛岡青年会議所での活動も最終的にSDGsに辿り着いた気がしています。所信もSDGsに寄せた部分があります。

事業をするにしても人数も減って来ていて、ダウンサイジングしなきゃいけない。一方で事業数を減らしていたにもかかわらず、大規模な事業をすべきだ、っていう声もありました。

とにかく多様性や、我がこととして考える表現の手段として、SDGsを使う認識を高めました。その想いを持ってやるからこそ社会的意義が付加されていくようなイメージを持っていたかな。当時の委員長の事業アイディアや最終的な出来上がりのイメージが具体的だったし。今までのものを引き継ぎながら、また違う表現をしてみようと努力して、みんな意識して実際に表現してくれていたと思います。そういった意識が浸透してきたころに、各メディアが反応してくれたなって思っています。TVや新聞、ラジオは毎年出ているものもあるけれど、SDGsの側面からとりあげてくれたメディアも出てきましたね。2019年の東北地区協議会のアワードでKAKEHASHIがグランプリを獲得しましたこともあって、やっぱり自分たちが価値あるものだと思ってやれるものは、外部の人も取り上げてくれると実感できました。

大和田理事長　2020年度はいかがでしたか?コロナによって社会情勢が変わって、途中で変更を余儀なくされた1年ですが、どのように活動していましたか?

宮野先輩　そもそも理事長所信のスローガンが『HERO』でした。「盛岡JC組織ビジョン」だと人間力の部分にあたります。一人ひとりが成長していくことや、一人ひとりが前向きに行動していくこと、その積み重ねからまちがより良くなっていく、という意味の所信でした。人間力の部分を大事にしたスタートだったのですが、途中からコロナウイルスの感染拡大が始まったこともあり、1年を振り返ると多様性を重視した実感があります。3月に、コロナウイルスの影響が大きくなった時は、JC活動なんかやっている場合なんですか?といった意見も多くありました。

当時は、年間事業計画も全く思うように進められないような混沌とした状況でしたので、時間をかけて合意形成していては前に進まない場面も多々ありました。誰かがリーダーシップをとって、強引にでも引っ張らなきゃいけないような状況ですね。

また、今JCをやっている場合ではないと言っていた人に対しては、まず自分のことをとにかく守ってく

第67代理事長　伊藤　淳之介

れと言っていました。どうしても現地に来られないっていう人は、Webで参加してもらうようにお願いしていましたし、出られる人は、出られない人たちが戻って来られる環境をみんなでなんとか作っておこうと。とにかく、置かれている状況はそれぞれ違いましたし、それを認めていかなければ前に進めないという状況でした。今思い返すと逆に、いろんな可能性は広がったと思うんですよね。様々なやり方をみんな考えてくれましたし。　最終的に感じるのは、どういう状況でも各委員長が前を向いて進んでくれていました。活動が止まっている状態のLOMもあった中で、盛岡のメンバーは力強くて誇りに思った1年でしたね。

伊藤顧問　混沌という未知の可能性を最後に試されていた感じでしたよね。この年に、JC 宣言文が変わったんですよね。

宮野先輩　日本青年会議所の10月総会のタイミングでしたね。

伊藤顧問　ものすごく混沌としている中だからこそ、宮野先輩は理事長挨拶でもずっと可能性のことや受け入れることを伝えていましたよね。

宮野先輩　はい、常に前向きな話しかしなかったですね。先輩方からわんぱく相撲も、さんさ踊りもできず、かわいそうだったねと言われることがありました。ですが、盛岡青年会議所が築いてきた歴史や信頼を引き継ぎながら、この緊急事態で様々な決断を迫られるという状況は、盛岡青年会議所70年の歴史の中で、恐らく僕が初めてだと思っているので、貴重な経験をさせていただきました。それが今の仕事にも活きているので、良い経験でしたね。

波紫先輩　今まで関わってきた人が違ったふうに見える場面もあったよね。

宮野先輩　そうですね。焦りからいろんな見え方を感じましたね。他のLOMではもっと早く決断して動いているところもありましたし、コロナ禍でどのように『HERO』として活動していくべきか、ずっと考えていました。最後の卒業式も開催するのかギリギリまで悩みましたね。

大和田理事長　それこそ理事の中にも卒業生がいて、卒業生としての想いと設営してくれる会員拡大委員会の思いが交錯して、ギリギリまで協議しましたよね。

中野先輩　コロナっていう誰も経験したことのない未知の緊急事態で、リーダーをしなきゃいけないという、本当に試された年でしたよね。たぶん、宮野理事長自身が試されていただろうし、メンバーも試されていたと思います。自分の会社の社員とかお客様に対して、どのようにすべきなのかを、宮野理事長が背中を見せて対応しなければならない状況だったと思います。

第68代理事長　宮野　祐樹

大和田理事長　当時色々な意見はあったと思うのですが、さんさをオンラインでやったきっかけは何ですか？

宮野先輩　世の中が閉塞感で落ち込んでいる時こそ、私たちが盛岡青年会議所として出来ることがあるのではないかと考えました。進めていく中で、盛岡青年会議所ってこんなにも地域の方々から信頼されているんだなと感じました。行政の方々や関係団体の方々に「盛岡青年会議所が先頭に立ってやってくれるなら全面協力します」と言っていただき、盛岡青年会議所に所属していなければ実現できなかったことだなと実感しましたね。社会全体が何かをすることに対して躊躇している時に、一番最初に僕らがやりますと言って行動したことは誇りに思っていますし、同時に多くの方々から協力いただけたことに関しては先輩方が築き上げてこられた歴史と信頼の証なのだなと実感しました。

大和田理事長　先輩の築いた信頼があったからこそ私たちに話がきたのだと思いますね。

伊藤顧問　少数派の意見を尊重しながら組織運営していくって、こういうことなんだってコロナ禍に入った2020年度に感じました。仕事柄、自分が設営する事業でも現地に行けませんって言う委員長もいるわけですよ。青年会議所の今までの常識だったらあり得なかったけれど、それを許容したわけですよね。少数派の意見と立場を尊重しながらあのような雰囲気になったのは組織の運営としてすごく印象的でした。

中野先輩　それを乗り越えたら多様性だよね。少数派の人たちの立場とか考え方を理解して、その人ができることを活かしていく方向に舵を切る。

宮野先輩　どの選択も尊重すると言い切っていましたし、全員が幸せになる選択肢が絶対あるはずだと信じていました。

中野先輩　やっぱりそれは宮野理事長の所信ですね。

大和田理事長　2021年度はコロナ禍からスタートした年でしたね。いかがでしたか？

田屋舘直前　そうですね。2021年度は完全にコロナありきの年でした。2020年度の経験を踏まえて、例会・事業の開催基準を設けて2021年度はスタートしました。こういう状況ならWebにして、こういう状況なら現地にしようって年初に決めて、みんなが納得感もってもらうようにしようってことが念頭にありましたね。だからWebと現地2つのパターンの議案を書いてもらいました。委員長と室長には大変な思いをさせたと思います。

そして所信の中ではSDGsの達成をビジョンとして大切にしていました。SDGsの誰ひとり取り残さないという理念の理解が自分の中で変わりました。2019年に出向していた頃は、全員に対して施すというような感覚でしたが、SDGsに取り組んでいくうちに、誰が欠けてもこの17の目標は達成できないんだという理解になりました。個人や団体・会社、地域、日本とそれぞれのレイヤーのところで課題は潜んでいて、誰にでも当てはまる目標だから自分の目の前のことを一生懸命やろうよと。SDGsの行動の10年に入っていたこともあって、まずはやってみようよっていうのをすごく大事にしていました。JCIのコーポレートスローガンにある「learning by doing =やって学べ」と共通している部分でもありますけど。そしてコロナ禍で、会員拡大は仮会員のところまでは24人まで行きましたね。この状況下で何ができるだろうといつも考えていました。世の中的にゴルフだったらいいんじゃない、みたいな風潮があって。拡大委員長にお願いして毎月ずっと新入会員や入会候補者を集めてゴルフコンペを開催していました。人が成長するためには、結局のところ人との出会いが何より大切だし、何をしたらその人がポジティブチェンジするかなんてわからないからできることやろうよっていうことで。

コロナ禍でオンラインが加速して時間や場所に制限されないことも良いことじゃないか、いろんな人に出会えるじゃないかとポジティブに捉えていました。『HERO』から得たものですけど、一生懸命やろうよってことを1年間意識していました。だから僕も宮野理事長と一緒で、頑張ろうと鼓舞する挨拶しかしていないですね。振り返るとやっぱり委員長たちは、すごく大変だったのだろうなと思いますね。

伊藤顧問　2020年度の時は技術的な問題とか感情的な問題とか、青年会議所ってこうあるべきだっていう意見が分かれていたから、提示できる選択肢が限られていた。だけど、2021年度になった時点ではもう一般常識としてオンラインに置き換わっていたし、日本青年会議所や他のLOMもオンラインを始めていたから議案書にも現地なのかオンラインなのか、ということで落とし込めるようになっていた。2020年度はルール作りみたいな所をやって、それを変えていっていたと思うから、バックグラウンドとしてそういう経緯があった。機材を買ったりして、だんだん自分たちが表現したいことがオンラインでもやれるようになっていったという気がしますよね。

中野先輩　いつかコロナ禍が終わったらって、思っていました？

田屋舘直前　終わってほしい願望はありましたけど、2021年でコロナ禍は終わらないだろうなと思っていました。

伊藤顧問　本来であれば会いたいわけじゃないですか。でもZOOMを知ってから、出向先の事業でオンラインを使ってJCIガーナと商談したり事業やったりして可能性は増えたなと思いましたね。

中野先輩　すごく可能性を模索した年だよね。

田屋舘直前　可能性は常に模索して、グループワークでは対面でやっているのと同じ価値を提供したいなぁと思っていました。

中野先輩　やることはやってみたの？

田屋舘直前　委員会が考えてくれて、いろいろ試してくれていましたね。2022年ではZOOMでも現地にいるのと変わらない感覚です。そこまで来ているなと感じています。

伊藤顧問　ブロック協議会の役員会とか姉妹LOM交流とかもメタバースや仮想空間でやっているところもあります。青年会議所はやっぱり早いなぁって思うし、面白いなって思う。まずやってみようぜって動けるのは青年会議所の強みだよね。

中野先輩　2018年の羅東JCとの姉妹締結50周年式典の際、人と人が会って対話をしてきた50年があって、どんなにネット社会になっても会うことの重要

第69代理事長　田屋舘　真留久

性を大事にしてきた50年という挨拶をしましたが、今は既にそうじゃない。会わなくても繋がれることが大事な価値観になってきていますね。

大和田理事長　本年の羅東JC創立55周年の式典もオンラインで参加しましたね。

中野先輩　それが仮想空間とかオンラインでできるようになってきたら、じゃあ今度はそこにどんな付加価値を持たせるか。誰もが同じ条件で講演とかを受けられる状況になったからこそJCの価値ってなんだろうって話になるんだろうね。

伊藤顧問　だからこそ地域の特性を考えて、どうやったらプラスになるのか、社会的意義があるのかっていうのは真剣に深掘りしていく必要があって、それが存在意義とか盛岡青年会議所としてのアイデンティティみたいなものを明確にすると思います。

― ③ 現役へのメッセージ ―

波紫先輩　現役メンバーへの想いを盛岡青年会議所という団体に対してと、個人に対して期待するところがあります。個人には、とにかく動いて欲しいと思います。当たり前ですが、動かないと何も変わらなし、動けば何かしら変わる。JCは何かやれば絶対変わることができる組織だと思います。自分が理事長の時には、『我がこと』という意識を持つように自分を変えて、まずは隣の人のために動いて考えて、近い人を変えることで、未来が変わっていく。とにかく自分の思ったままに行動して欲しいです。盛岡青年会議所の組織のメンバーとして、人脈や人との関わりを全て使い、時代に合った活動や運動をするのが一番良いと思います。

団体に対しては、一丸となった姿を見てみたいです。人数が多い少ないは関係なく、全員が全ての力を結集して、一つのことに向かっていく姿を見たいです。拡大や委員会一つ一つの目標達成ために一丸となっている姿は、すごい力となって伝わりますし、その経験は全て自分に返ってきます。そこに私も立ち会いたいです。だから私も、これからもまちを担っていく一人として利用してもらえるように頑張っていきたい。5年前とは環境が違う、やり方や考えも違う。だからこそ、青年会議所としての初心を忘れずにいてほしいです。そこさえ忘れなければ何に対しても大丈夫だと思います。人脈や繋がりをどれだけ活かすことができるか、それらの経験も全て吸収するという気持ちで、とにかく行動して欲しいと思っています。

中野先輩　私も団体と個人に分けて話したいと思います。

個人に向けては、多様性について、一番大事なことは尊敬だと思います。自分の知らないこと、認めたくないことについては批判的になりがちです。自分の価値観の中にないものだからこそ、反対意見になりやすい人に対する尊敬が存在しないと、組織を作っていく上でも、個人に向けてでも、なかなか人のつながりが広がらないと思いますし、力にもならないと思います。個性の強い人材が集まっている組織だからこそ、尊敬しあえる仲間でいて欲しいと思います。

組織に対してはJCの規模感を意識して欲しい。世界とのつながりもありますし、歴代の会員が作り上げてきたものだからこそ、きちんと成熟している組織です。だからJCの良いところを活かし、自分たちの血肉にしていってもらいたいです。

今のコロナ禍はたった3年です。世界はガラリと変わりました。そのガラリと変わった世界に合わせてきたことは、JCの強さでもある。ですが、コロナ禍以前の密である良さもあると思います。それをゼロに戻さず、新しい可能性としてまた見出していくことが必要です。

5年前に思っていたこと、「我がこと」とか、「種蒔き」と所信に含めたものが、今になって必要になってきています。JC活動を考えると、世相を先取りしていく必要があります。人に「何を言っているんだろうね、あの人たち」と言われたとしても、その先を見据えて、そこにビジョンを描いて、みんなで一緒に走っていく!そういう組織であり続けて欲しいと思います。

伊藤顧問　組織の話で言うと、時代に先駆けて行動していく組織でなければいけないと思います。先駆けて行動するリーダーを作っていく組織であって欲しいですね。そして、これからの理事長の皆さんにも、そうあり続けて欲しいという期待があります。

目の前で起きている事象を見るだけではなく、今後どういう世界になっていくんだろう、どこに向かっ

第70代理事長　大和田 祐輔

ていくべきかを見据え、今やるべきことを見つけて行くことができる組織であり続けてほしいと思います。

個人の話で言うと、それぞれに行動する理由を見つけて欲しい。JC は、実際に行動してアウトプットできる、自分の思考を事業として表現できる場所ですよね。ですが、それにも行動する理由は必要。それが経験にもなりますし、ネットワークを作ることもできます。

私事ではありますが、娘たちや従業員の笑顔を守るために行動するというのが強い思いです。組織として困難を乗り越えて、守るために変化するものです。変わっていく中で、本質的なものを見る力を身につけてもらいたいと思っています。

その手段として、外部からの評価を受けるためのアワードに挑戦してもらいたい。アワードに出せる、外部からの評価を受けるという視点で、活躍してもらいたいという期待もあります。これは1つのステップアップするためのもの。自分たちで正直失敗したなと、内心思っている事業でも、良かった点はきっとあります。内部の評価も大事ですが、内輪で終わらせない。それは、外部監査を入れることと同じ考え方で、ナアナアにならないように積極的に行って欲しい。事業をイメージできる理事に成長していただきたい。後は、出向し外を見て、盛岡青年会議所の良さ悪さ、進んでいるところ遅れているところを、客観的に判断できるような人材になっていただきたい。その手段として出向やアワードを使い、外部からの視点を取り入れ、より強い組織を作っていく人たちになってほしいと思っています。

宮野先輩　青年だからこそできること、青年会議所だからこそできることがあります。現役の皆さんには、青年会議所をどんどん活用して、失敗することを恐れず思い切ったチャレンジして頂きたいと思います。卒業した後、社会でより良い成果を残すためにも、今しかできないことをやっていただきたいですね。

また、青年だからこその先進的な考え方もあると思いますが、同時に変わらない普遍的な部分も大事にして欲しいですね。卒業しても僕の中には、「修練・奉仕・友情」の三信条が根付いています。修練に関しては、今でも色々なことに挑戦していますし、常に自分を成長させる環境に身を置いています。奉仕に関しては、今の自分の仕事は本当に社会に役立っているのか、誰かのためになっているのか、ということを考えるようにしています。友情に関しては、Webだけに頼らず、ひざを突き合わせた人と人との本質的なつながりを大事にした活動をしています。今の私を作り上げた基礎が JC だといつも感じています。

JCでの活動は皆さんが卒業した40歳を過ぎてからの人生に必ず活きていきます。やった分だけJCは皆さんに返してくれますので、自己成長への投資だと思ってとにかく一生懸命やってほしいと思います。

田屋舘直前　宮野先輩がおっしゃる通り、一生懸命やってほしいという思いが自分にもあります。一生懸命というのは、一生懸命JC活動できる環境を、自分で整えなさいということ。JCに行ってきます!と、家族や社員に胸を張って言えるような普段の関係づくり、環境づくりをしてもらいたいと思います。だから自分の周りの人に、一生懸命頑張っている姿を見せることと、自身の活動内容を伝えることがすごく大切です。そうすることで、自分の身近な人が理解者になってくれます。また、同時にその人に対してもポジティブチェンジを起こすことができます。これは大前提としてやってもらいたいなと思います。

もう一つは、尖った事業をやってもらいたいです。与えられた事業のテーマがあって、対象者はどういう人なのかを考えて、その対象者はどういう課題意識もっているのかを一生懸命考えて実施しないと本当に残念なことに誰にも共感を得ない事業になってしまいます。背景でなぜ?を繰り返してからの目的設定、そこを徹底した事業構築してもらいたいなと思います。これこそが明るい豊かな社会の実現に近づく最善の道だと確信しています。

最後に、多様性を享受すること。色々な特性の人がいていいという認識をもつことが大事です。同じような人だけがいる組織は発展していかないと思います。異端の人がいるからこそ、組織としてバージョンアップしていくと思います。自分の意見が少数派だと諦めず、思ったことは言う!という自信をもってもらいたいです。ロバート議事法の話があったとおり、少数意見は誰も気づかなかっただけの話です。自分以外が同じ意見だとしても、バックグラウンドが違えば気づくポイントも違います。だから、自分自身のバックグラウンドになっている仕事や人生経験に自信をもって発信してもらいたいですね。

大和田理事長　各理事長がその年度ごとに、どのような志で運動してきたのかを伺うことができました。「多様性」「人間力」がそれぞれの所信の中に活かされること、そしてビジョンを掲げることで、コロナ禍での困難も超えてきたことにも気づかされました。盛岡青年会議所の歴史と受け継がれてきた志を次世代へ引き継げるように、現役メンバーと共により一層活動を盛り上げていきたいと思います。

本日は長時間に渡りありがとうございました。

創立70周年記念特別企画Ⅱ

次世代が見据える
～JCI～

青年会議所と自身の可能性
「メンバー対談」

創立70周年記念特別企画Ⅱ
次世代が見据える ～JCI～ 青年会議所と自身の可能性
「メンバー対談」

進行役	出席者				
大和田 祐 輔 2022年度理事長 2013年入会	**村 上 千 尋** 次世代育成委員会 副委員長 2014年入会	**松 浦 直 人** 社会開発室 室長 2018年入会	**髙 橋 凌** 事務局長 2020年入会	**福 田 和 晃** 事務局次長 2020年入会	**中 嶋 政 裕** 会員開発委員会 委員長 2020年入会

理事長　本日は、盛岡青年会議所創立75周年を迎える2027年に在籍している皆さんにお集まりいただきました。誠にありがとうございます。
　皆様には

① 盛岡青年会議所入会に至った経緯
② 入会してみて感じたこと
③ JCに期待していること
④ 5年後どうなっていたいか

の4点についてお話をお伺いしたいと思います。

― ① 盛岡青年会議所入会に至った経緯 ―

松浦君　入会に至った経緯ですが、僕はもともと生まれも育ちも山梨県で、岩手には縁もゆかりも無かったんです。前職で知り合った妻が盛岡の人で、妻のお父様が、今私の勤めている会社の社長なんです。妻が長女ということで跡継ぎの話があり、結婚するなら後を継がないかっていう話をいただいて、盛岡に来たのが始まりです。そして、社長が盛岡青年会議所のOBで、平成元年卒業の方なんです。私は盛岡に来たばかりで、知り合いもいなかったので、「青年会議所に入れば同じ世代や長く付き合える友人が出来るから、入会して頑張ってみたら？」という話をいただきました。当時の私は右も左もわからなかったというのもありますが、信頼のおける社長のお言葉でしたので、JCに入会をしました。

村上君　私は20歳までスキーの選手をやっていました、その繋がりで、OB先輩にJCのお誘いいただいたのがきっかけです。やっぱり20代だったので、当時はJCのイメージもないし、聞いたこともなかったです。何をやっているのかもわからなかったのですが、まずは、

話だけでも聞いてみてって誘われたと記憶しています。今の会社の上司である母親に相談してみたら、「まあやってみればいいんじゃない」っていう感じで後押しされて、色々わからないことが多いまま入会しました。

福田君　入会のきっかけですけど、メンバーの人と友達として繋がっていてお話を聞く機会があったという事もあります。もともと営業職のサラリーマンをしていましたが、当時は、退職して大通りにバーを出店し、イケイケでやっていた頃でした。その時が24歳ですね。実家の会社を継ぐことや将来のことを色々考えた時に、若いとはいえ社会を知らないのではまずい、という考えがあったんです。そこで、社会を学べる機会として、同世代とずっと居るよりは、年上の人たちと早めに触れ合っていたほうが良いのかなと考えて、入会を決めた感じです。

中嶋君　仲良くさせていただいている先輩に現役メンバーの方がいまして、ある日、その方の会社に営業に伺ったのですが、雑談で盛り上がるうちに、JCの話も出てきたんです。信頼が厚い先輩というのもありました。その流れでJCに誘われて、2020年に行われた異業種交流会に参加し、そのままの勢いで入会しました。

髙橋君　2020年に4月岩手に戻ってきて、今の会社に入社しました。OB先輩が私の会社の社長なのですが、いつか独立するために勉強したいと思い、仕事の場面でも同行させていただいていました。

社長から、「人間的な成長がしたいの？それともビジネス的な成長がしたいの？」と聞かれました。人間的ならJC、ビジネス的には商工会議所を勧められ、どちらの組織に入るか、そこで悩みました。

僕は、ビジネスはいつでもできるけど、まずは人と交流して、人脈を広げるほうを選んで、JCに入ろうと考えました。数か月後に、当時の拡大委員長が会社にいらっしゃって、JCの説明を社長とお二人にしていただき、入会したという流れです。

2022年度理事長　大和田　祐　輔

次世代育成委員会　副委員長　村　上　千　尋

理事長　ありがとうございます。それぞれの入会の経緯って聞いてみると面白いですね。

僕の場合は、当時の会社の上司がOB先輩で在籍中に理事長もご経験された方ということもあり、その影響を強く受けていますね。JC活動をしている先輩がカッコよく見えたというか。入会当時は皆さんと同じで、JCについてなにもわからないで入会しましたね。

― ② 入会して感じた事 ―

理事長　皆さんそれぞれの経緯があって入会して頂いたと思いますが、次に盛岡青年会議所に入会してみて感じたことを伺いたいと思います。では、まずは福田君からよろしくお願いします。

福田君　いい意味で、いろんな人がいるんだなと感じます(笑)若い人がもっと入った方がいいなと思いました。35歳とか36歳ぐらいに入ってきたら多分、物足りなくなっちゃうのかなと感じています。若いうちに、JC活動を経験することで、絶対自分の仕事とか、長い人生において、色んな所で活かせると思っています。遅くても27～28歳ぐらいには入ったほうがいいんじゃないかな？というのが一番感じるところです。35～36歳での入会がダメという事ではなく、若いうちに、それこそ27～28歳で入会した方が、絶対自分の成長につながると、素直に思います。

村上君　入会してみて、私も営業なので、いろんな企業さんにお邪魔しているんですけど、社長さんとか経営者の方と会って話ができる機会は少ないです。入会すると、そういった方たちとお話する機会を得たり、関われたりすることが自分にとってメリットだったかなと思います。後は、事業などで司会もやらせて頂いて、普通に生きていたら新年交賀会とか、ああいう大きいところで司会できることってないと思うんですけど、そういう普通に生活していたら体験できないことを盛岡青

年会議所に入ってできたかなって思います。

松浦君　入会した時と今とで、感じていることはそれぞれ違っています。

入会した時に感じたのは福田君、村上君がお話ししていたように、様々な方がいらっしゃるなって思いました。役職とか社会的な役割とか、立場的なものもそうだし、感性が独特な方だなと思う方も含めて、いろんな人と関わりを持てる。こういうことは、おそらく自分の会社だけにいたら絶対ないなと思いました。

今感じているのは、いろいろ役職を経験させていただいて、その中で、自分自身が周りの人に何ができるか、よく考えるようになりました。これは青年会議所の活動に限らず、青年会議所を通じて、心境の変化なのか成長なのか、自分自身では分からないですが、そういった気持ちが持てるようになったな、ということを感じます。

理事長　3人とも仕事だけでは出会えない人と活動できることに魅力を感じていたということですね。

中嶋君　仮会員の時は、どんな組織かも全くわからなかったですね。コロナ禍に突入したこともあって、2020年の間は正会員になったあとも、なにをやっているのかわからない状態が続きました。2021年に事務局次長に任命されて、裏方から全体を見ることができ、多方面に事業展開している様子を俯瞰して見ることができました。各委員会それぞれの色があることが分かって、どの委員会の事業も、相当な時間をかけて事業を行っている組織なんだな、と改めて感じました。

去年は7人くらいの少人数の中で動いていたけど、今年は新入会員が増えて、どうすればうまくいくのか、わからないままやっていて。スタートラインもバラバラな仮会員の方に何度も同じことを説明したりと、どうやって人を動かすのかが勉強になっていますね。

髙橋君　はじめ、オリエンテーションへの参加など、とにかく正会員になるミッションをクリアするために何

社会開発室　室長　松　浦　直　人

事務局長　髙　橋　　凌

をすべきか、ばかり考えていました。2021年に、委員会幹事を任命されて、これまで関わりのない人と関われて、とにかく1年間楽しかったですね。アカデミーにも参加して、他の地域の人たちと交流することで、自分と違う価値観を学べて。サラリーマンだけの人生だったら、つまらなかっただろうと思います。

今年感じていることは、メンバーを未だに引き上げてあげる事ができていないということですね。表立って活動できていない方を引き上げることが全然できていない。人のモチベーションを上げることに特化することが難しい。例えば、ビックマウスの人の中に、スモールマウスの人を混ぜるとモチベーションが落ちることもあります。自分がこうなりたい、という想いがある人は動いてくれるけど、モチベーションがそこまでない人を、どう意識変革させるのかが難しいと感じています。そして、今年度参加させていただいた東北地区のアカデミーでは、後にそれぞれの地域で理事長になる人達と話をして、価値観が変わるきっかけになりました。

理事長　みなさんの話を総括すると、いろんな価値観の人と触れ合えた事で、自身の価値観が増えてきたという感じですかね。

― ③ JCに期待している事 ―

福田君　先ほども少し話しましたが、とにかく若い人に入会してもらいたいです。

35歳超の入会の方が多い傾向があって、そうなると5年以内でいろんな役職をパンパンパンとやらないといけないから、どうしても駆け足になる。それが、例えば27･28歳位の入会者が増えれば、自分のペースでいろんな役職を経験して、ゆっくり進んでいけると思うんですよね。そして、1年おきぐらいに役職が回ってきて、最終的に40歳ぐらいで、それなりの役職に付けるようになる。そうなれば、経験もあって充実した人たち

が役職について、事業とかもうまくいくのではないかと思います。でも、若い人たちが入ってくるためには、本当に単純にカッコイイなとか、スゲーなっていうイメージやインパクトを与えられる団体になることが必要だと感じています。私自身もインパクトを与えられる人になって、組織のインパクトも強くしたいですね。

村上君　同年代の友達に青年会議所ってどういう団体なのか？と聞かれた時に、盛岡を良くするために活動している団体だよ、と言っても知っている人が少なくて。まだまだJCを知らない人が多いのかなって思います。盛岡さんさ踊りだと、パレードの花車で最後に出ている団体とは分かるけど、それ以外の印象が弱いのかな。もっと地域に知ってもらえる活動とかがあればまた違うのかな。地域の人に認知が浸透している団体であって欲しいと期待しています。

松浦君　色々な考え方を持って入会される方が多いと思います。私みたいに、友達を増やしたいっていう方もいるでしょうし、仕事の仲間を増やしたいとか、何も知らずに入会された方もいるでしょう。逆に、意識が高く、こういう事がやりたいと目的をもって入会される方とか。本当に様々な方が、これから入会されてくると思うんです。

そういった方々に対して、刺激を与えられることができれば、JCに入会して良かったなって感じてもらえると思うんです。そこから人伝いに拡散して、仲間が増えて、街が盛り上がって…。そういう活気のある団体になって欲しいと期待していますし、そうなる為に頑張ろうと思います。

中嶋君　どんどん新しいことをやることに期待しています。事業を発案するときって、どうしても過去の議案を参考にしてしまうんですよね。参考にすると、どこか過去の議案に引っ張られてしまう。真似することはいいのですが、一方で新しいことを探していかなきゃいけないという気持ちもある。新旧バランスの計り方がそれぞれ難しいと感じています。

事務局次長　福　田　和　晃

会員開発委員会　委員長　中　嶋　政　裕

2022年の事業で、ダンスダンスダンスやeスポーツ協会の事業は、近年少なかった試みです。こういう発想はすごいなと思っていて、どんどん増やしていきたいです。逆に、先輩方がやってきたことをふり返ることも必要で、過去の事例や思いにベクトルを合わせていくことも大切にしたいですね。

髙橋君　もりおか地域で運動を起こしているはずなのに、市民に知られていないような気がしています。メンバーみんな時間がない中でやっているのに知名度が低いこの状況を変えたい。

それと、年代についても変革が必要だと思います。JC＝30代後半のひとたちがやっている、というイメージも変えたい。逆に、20代の集まりになっても面白い。5年間で大いに変わる部分だとも思います。

理事長　そうですね。若い世代の共感をどうやって呼ぶのか考えていく必要がありますね。もっと若い世代の18歳以下にも認知してもらいたいですね。

髙橋君　たしかに、これまでも事業で大学生に声をかけて参加してもらっているのですが、その後の盛岡青年会議所の活動に続けて参加してもらえていませんね。事業のインパクトを高めることも大事ですが、1度だけでなく参加する回数を増やせれば、彼らはJCのことを忘れないと思うんです。年に1回は、何か事業に参加してもらえれば、もしかすると地元に就職して、一緒にまた活動してみたいと思ってもらえるのかもしれない。未来への種捲きが継続的に必要なのに、単年度で考えてしまっているところもありますよね。

理事長　より外部の方に知ってもらうためにはどうすればいいのか、参加された方のフォローはどうすべきか。インパクトを残す事業を設えることはもちろんだけど、若い人たちに対する仕掛けづくりも期待しています。

― ④ 5年後どうなっていたいか ―

福田君　5年後は32歳ですね。今よりはもうちょっとベースアップしていたい。具体的には松浦君に追いつきたいな（笑）今は私自身、まだまだJC活動に対して、ゆったりとやっている感じです。これから私より若いメンバーが沢山入会して、自分の後輩になる皆さんを引っ張っていく立場になると考えると、彼らに影響を与えられるような人になりたいと思っています。

5年後って、現在中学校、高校生の人たちもJCに入会できる年になっていますよね。この前も大宮中学校で事業ありましたけど、そういった地域に根付いた事業を大切にして、その子たちに影響を与えられるような活動をすることで、将来的に仲間になってくれればいいなと思います。

理事長　ありがとうございます。そうですね、5年後は今の高校生たちがJCに入会してると嬉しいですね。

村上君　5年後には、全ての面でもっとスキルアップしていたいです。もともと人前で話すのが苦手で。今でこそ、JCのお陰で機会を頂いて少しは慣れてきましたけど、もっと上手く話せるようになりたいと思っています。

盛岡青年会議所では、女性会員を増やしたいです。以前は女性会員の多いLOMだったと聞いていますが、どんどん卒業されて今は少ないと感じています。女性には仕事の他に、妊活、産休、育休など、様々なライフイベントが活動の弊害になってしまうケースが多くあります。ですが、それでも頑張っているというメンバーの姿を増やすことで、お互いのモチベーションアップにも繋がると思います。是非とも女性会員を増やしたいです。

理事長　おっしゃる通りです。女性も含め様々な人が輝ける団体にしたいですね。

松浦君　5年後は38歳になる年なので、青年会議所は40歳で卒業というタイムリミットが決まっている以上は円熟期を迎えている時です。

今年は会員拡大で31～32歳位の年の方が増えたので、その方たちも同じ円熟期を迎えるわけです。その方たちと一緒に地域にインパクトを与えられるような団体になっていたいです。5年後は盛岡青年会議所の中心メンバーになって、常にエネルギーの渦にいたいですね。

そして、その姿をみて次の若い世代、それこそ福田君が言ったように20代の方々が憧れて入会してくれるような、団体組織にしていきたいと思います。

高橋君　僕は、常に若く変化を楽しんでいけるような存在でありたいです。歴が長いからって、みなさんに毛嫌いされるような存在ではなく、新しい変化を促せる存在でいたいと思っています。

でも、このまま休まず12年続けていくと、どこまでいけるのか…。みなさんには、やれるところまでやれ、どこまでも上を目指せと言われることもありますが…。5年後はコロナも気にせず動けるようになっているはずだし、仕事も自分自身も成長しているはず。だから、活動も仕事ももっと面白く感じられていると思います。

中嶋君　自分の立ち振る舞いから考えてみても、裏方でみんなを押していく方が好きなんです。
表立つことも好きだけど、みんなを気に掛けて背中を押す振る舞い方は、5年後も続けていきたい。この組織だからこそ、そうしたいと思っています。

辞めそうな人に対する対応策も必要だけど、行動できる人でありたいとも思っています。それぞれの活動にやる意味があると、胸を張って伝えられる人でありたい。
5年後は40歳になり卒業の年だから、尚のこと、盛岡青年会議所に何かを残したいし、これから中心となる人を引き上げられる人になっていたいと思います。

理事長　これからが楽しみですね。皆さんが様々な経験から成長し、盛岡青年会議所を牽引していっていただけると感じました。

本日は貴重なお時間を頂きありがとうございました。

今年度事業報告

第34回わんぱく相撲盛岡場所事業報告

第45回盛岡さんさ踊り事業報告

記念事業Ⅰ
「マリ共和国助産所建設プロジェクト」

記念事業Ⅱ
「視野を広げて、好きを仕事に!」

第34回わんぱく相撲盛岡場所事業報告

日時：2022 年 6 月 19 日（日）
場所：八幡平市松尾相撲場

未来の担い手である子供たちは、ひととの関わりで成り立つ社会生活の中で不可欠な礼節を知る必要があります。子供たちが、その礼節を知るだけでなく、社会形成者として不可欠な心情、意欲、態度を身につけると同時に向上心を高めることは、未来をより良く変える力となります。だからこそ現代社会を担う私たち大人は未来を引き継ぐ子供たちの健やかな成長に寄与する行動を起こすべく、去る6月19日（日）、八幡平市松尾相撲場にて「第34回わんぱく相撲　盛岡場所」を創立70周年記念事業として開催いたしました。

本年も「勇気・礼節・感謝～心にいつもわんぱくピース!!～」をスローガンに掲げ、子供たちが目標を実現させるための強い心を育むことや、対戦相手や自分を支えてくれる家族や友人への感謝の心や思いやりの心を育む機会といたしました。

岩手県内の１年生から６年生の男女計50名の子供たちが日頃の鍛錬の成果を発揮し、ひたむきに取り組む姿はメンバーを含めた大人たちを魅了し、土俵にて果敢に挑んでいく姿には感動いたしました。

そして、盛岡青年会議所創立70周年記念事業として世界相撲チャンピオンに表彰経験がある今日和氏と五十嵐敦氏のお二方による個別教室が行われ、直接子供たちの指導をしていただくことで、子供たちには貴重な体験とかけがえのない想い出を提供できた大会となりました。また、今日和氏より講演を頂き、相撲を通じた観点からジェンダーについて考え、参加者すべてが平等に目標をもつ大切さを伝えて下さいました。

今日和氏作成レシピによるちゃんこ鍋お振舞と、八幡平市商工会青年部のご協力により八幡平ポークフランクフルトの試食会を行い、地域の方々から子供たちまで多くの方に楽しんでいただきました。

子供たちが真剣にスポーツに取り組む中で社会形成者として必要な心情、意欲、態度を身に付け、男女の区別なく大人と子供たちが未来の社会を創造すべく、より強く一歩を踏み出すことができたと考えております。

第45回盛岡さんさ踊り事業報告

日時：2022 年 8 月 1 日（月）～ 2022 年 8 月 4 日（木）
場所：盛岡さんさ踊りパレード及び輪踊り会場
　　盛岡市中央通　盛岡さんさ踊り開催会場

盛岡青年会議所は、1978年の初開催から主催団体として盛岡さんさ踊りに関わり、様々な方と魅力を発信すべく多くの工夫を積み重ね、活気と一体感を生み出してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大によって2年間の中止を余儀なくされてきました。私たちは第 45 回盛岡さんさ踊りを一般社団法人盛岡青年会議所創立70周年記念事業として位置づけ、感染症対策を徹底し、様々な方や他団体の意思を尊重しつつ、6～7月の計10回の練習会を経て、本番である8月1日 (月) ～8月4日 (木) の全ての日程で市民とともにパレードに参加しました。

盛岡青年会議所メンバーと市民を含め練習会では延人数600人、本番では毎日100人程の方にご参加いただき、様々な方を巻き込んだ事業を実施することができました。

私たちにとって、3年振りの開催となった盛岡さんさ踊りがもりおかの魅力であることを改めて認識する機会となり、これからも盛岡さんさ踊りへ市民と参加し、もりおかの魅力をさらに高めていくことを強く決意しました。

記念事業 I

マリ共和国助産所建設プロジェクト

日時：2022年９月１日（木）～2022年10月16日（日）
場所：いわぎんスタジアム、盛岡大通商店街、材木町商店街

2020年の東京オリンピックで盛岡がマリ共和国のホストタウンに認定されたことを契機とし、始まったマリ共和国への支援事業の第二弾を創立70周年記念事業として本年実施いたしました。

2020年度の第一弾では、マリ共和国の貧困率の高さが喫緊の課題で、その原因の一つに女性の社会進出が遅れていること、そして遅れる要因として女性の識字率がとても低いという一つの結論に達し、女性のための識字学校を建設しました。この識字学校建設プロジェクトは 2021年度の日本青年会議所のJCIアワードでグランプリを受賞する事業となりました。

第二弾の今回の事業では、女性の社会進出を後押した第一弾に続き、社会進出をしようとする女性の雇用創出と、世界的にみても高い妊産婦死亡率と新生児死亡率の改善するために助産所建設プロジェクトを立ち上げました。

助産所建設のために100万円、助産所の備品代40万円、助産師の育成費用30万円、合計170万円の寄付を目標とするプロジェクトです。支援先の現地の人の幸せを願うと共に、この支援活動を通して、もりおか市民に国境を越えた利他共生の精神を育むことで、国際的な問題のみならず、自分たちが住み暮らす地域課題にも向き合い、自分自身にできることを考え行動に移すきっかけとし、国際的にも地域的にも社会の一員であることを自覚してもらう事業として実施いたしました。

記念事業Ⅱ

視野を広げて、好きを仕事に！

日時：2022年９月８日（木）
場所：盛岡市立大宮中学校

一般社団法人盛岡青年会議所創立70周年記念事業Ⅱ「視野を広げて、好きを仕事に!」を９月８日（木）に盛岡市立大宮中学校二学年生徒160名保護者50名を対象として実施いたしました。

京都大学の准教授として生徒に授業をする傍ら、自身でも「kashinoki」という事業を運営し、将来を担う10代20代に向け自分の可能性を最大限に発揮して「好きを仕事にしつづける」ための活動をされている真鍋希代嗣氏を講師としてお招きし、講演会とグループワークを実施いたしました。

私たち大人は、日々の報道によって心の安寧が揺らぎ将来への不安を抱き視野が狭くなっている子供たちがいる事実に目を向ける必要があります。そして、未来ある子供たちに、広い視野で今を大切に生きる尊さを実感してもらい、将来に対する可能性を見出す環境をつくり出すために事業構築いたしました。

子供たちには、世界情勢を知り視野を広げる機会と、学業が自分だけではなく将来誰かの役に立つことであることを学ぶ機会と、将来に対する夢と希望を見出す機会の3つの機会を提供いたしました。

事業実施後には、生徒と保護者の方々からの意見や質問が絶えず、参加した全ての方が未来のために意見を交わすことができました。

編集後記

一般社団法人盛岡青年会議所創立70周年記念誌の発刊するにあたり、ご協力を賜りました皆様に心よりの感謝を申し上げます。

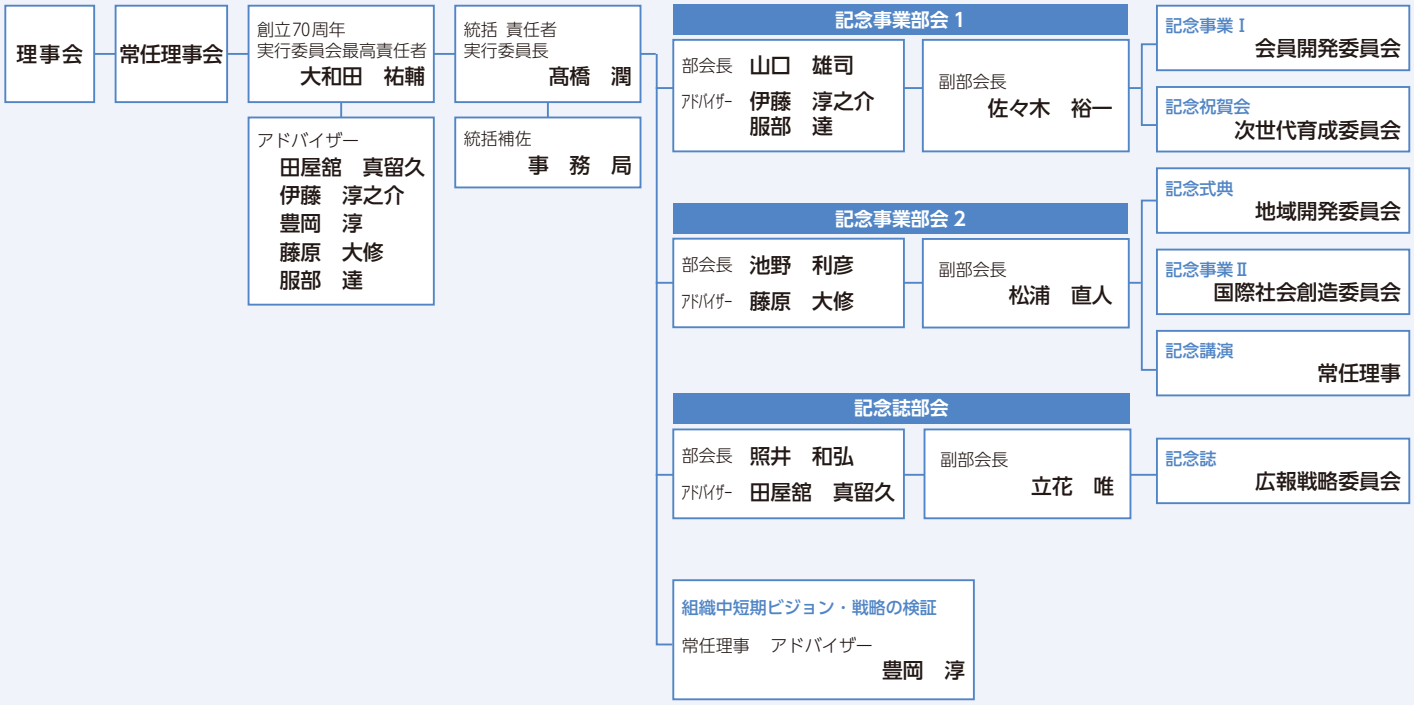
盛岡青年会議所は修練・奉仕・友情の三信条のもと明るい豊かな社会の実現を目指し、もりおかに青年会議所運動を展開することによって社会の信望を集めてきました。そして、そのことに満足せず、地域により必要とされる組織となるべく、2017年からの５年間は盛岡 JC 組織ビジョンを指針として、組織のあるべき姿を模索しながら、多様性を享受し人間力を高め合い明るい豊かな社会を目指してきました。本誌では各年度を振り返ること、歴代理事長（第65代～第70代）座談会を開催することで、更に年度毎の運動の価値をご理解いただける内容となっていると自負しております。

また創立70周年を迎える本年に記念事業として、第34回わんぱく相撲盛岡場所、第45回盛岡さんさ踊り、マリ共和国助産所建設プロジェクト、大宮中学校との職業観育成事業を開催させていただき実施報告を記載しております。是非お目を通していただき、今後の皆様の運動の参考となれば幸いです。

記念誌の作成に際し盛岡青年会議所の歴史に触れ、その歴史的価値に圧倒される毎日でした。盛岡青年会議所の歩みを学ぶ手段として、最も頼りになったのが各年代における記念誌でした。本記念誌が未来に向けて盛岡青年会議所の歴史を綴る役割の一端を担うことを考えると、とても感慨深いものがあります。

結びに、5年後10年後の現役会員がこの記念誌を読み返したときに、今後入会される未来の会員の活動を支える揺るぎない礎となるものと祈念いたします。今後とも盛岡青年会議所の運動に更なるご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

▼ 一般社団法人盛岡青年会議所 2022年度　創立70周年実行委員会　組織図



一般社団法人 盛岡青年会議所

創立70周年記念誌

発行日／2022年10月15日

発　行／一般社団法人 盛岡青年会議所

〒020-0024　岩手県盛岡市菜園２丁目６－６三栄ビル3階

TEL: 019-651-3778　FAX: 019-654-4476

印　刷／株式会社　白ゆり

〒020-0122　岩手県盛岡市みたけ六丁目1番50号

TEL: 019-643-6060